

DEXIBELL

VIVO | S1 |

digital piano

Owner's Manual





For European Countries

This product complies with the requirements of EMC Directive 2004/108/EC.

Regulatory and Safety Information

Users in U.S.A

This product has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital devices, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- 1) This device may not cause harmful interference.
- 2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC CAUTION: Any unauthorized changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Note: The manufacturer is not responsible for any radio or tv interference caused by unauthorized modifications to this equipment. Such modifications could void the user's authority to operate the equipment.

For Canada

NOTICE

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

AVIS

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

IMPORTANT NOTICE FOR THE UNITED KINGDOM

IMPORTANT: THE WIRES IN THIS MAINS LEAD ARE COLOURED IN ACCORDANCE WITH THE FOLLOWING CODE.

BLUE: NEUTRAL
BROWN: LIVE

As the colours of the wires in the mains lead of this apparatus may not correspond with the coloured markings identifying the terminals in your plug, proceed as follows:

The wire which is coloured BLUE must be connected to the terminal which is marked with the letter N or coloured BLACK.
The wire which is coloured BROWN must be connected to the terminal which is marked with the letter L or coloured RED.
Under no circumstances must either of the above wires be connected to the earth terminal of a three pin plug.

For European Countries



This Symbol indicates that in EU countries, this product must be collected separately from household waste, as defined in each region. Products bearing this Symbol must not be discarded together with household waste.

VIVO | S1

オーナーズマニュアル

VIVO S1をお買い求めいただきありがとうございます。

VIVO S1は、高品位なポータブルサイズのデジタルピアノです。

Dexibell独自の24bit/48kHzのT2Lサンプリング&モデリング・テクノロジーにより、アコースティック・ピアノの特徴を忠実に再現。実質無制限の同時発音数により、アコースティック・ピアノのような弾き心地を実現しています。

さらに、アコースティック・ピアノやエレクトリック・ピアノだけでなく、オルガンや、ブラス、シンセサイザーなど、Dexibellの最高音質のサウンドも惜しみなく搭載。

VIVO S1の豊富な機能を最大限に活用するために、このオーナーズマニュアルをお手元に置いて、すべての項目をよくお読みください。



Dexibellの延長保証（3年）を受けるためには、製品登録が必要です。

- www.dexibell.comにアクセスして、製品登録を行ってください。
- 製品登録されると、通常の製品保証期間（2年）が更に3年延長されます。
- 登録には、ご購入時のレシートや納品書をアップロードする必要がありますので、予め画像データ化しておいてください。

1 安全にお使いいただくために

ご使用になる前によくお読みください

感電、火災、その他の危険による死亡または重症を負う可能性を回避するために、以下の指示を必ず守ってください。

警告

温度が極端に高い場所・地域で使用しない

製品本体と付属のACアダプターは、温度が極端に高い場所・地域で使用しないでください。動作温度範囲は、5~40℃です。



個人で修理や部品交換をしない

製品の修理や部品の変更・交換を行わないでください。そのような際は、必ずお買い上げ店または Dirigent カスタマーサポートにご相談ください。



製品や付属品の分解・改造をしない

製品や付属品を開けたり、内部コンポーネントを分解したり改造したりしないでください。



付属のACアダプターを使用する (DEXIBELL DYS624-120200W)

必ず付属のACアダプターを使用してください。異なるアダプターを接続すると、内部回路に重大な損傷を与えたり、感電の危険があります。



付属の電源コードを使用する

必ず製品付属の電源コードを使用してください。



電源コードを傷つけない

電源コードを過度にねじったり曲げたり、傷つけたりしないでください。火災や感電の原因となります。



不安定な場所に設置しない

ぐらついたり傾いたりした場所に設置せず、必ず安定した水平な場所に設置してください。



液体や異物を入れない、液体の入った容器を置かない

液体（水やジュースなど）の入った容器や異物（可燃性のもの、硬貨や針金など）を、本体に入れないでください。誤動作やショートなど、故障の原因となります。



次のような場所で使用や保管をしない

- ・ 極端に暑い場所（直射日光、暖房器具の近く、日中の車内など）、寒い場所
- ・ 蒸気や煙が直接当たる場所
- ・ 湿度の高い場所（洗面所や浴室、濡れた床など）
- ・ 塩害の恐れがある場所
- ・ 雨に濡れる場所
- ・ ほこりや砂ぼこりの多い場所
- ・ 温度や湿度が急激に変化する場所（結露が発生し、機器が損傷する可能性があります）
- ・ 振動や揺れの多い場所



製品を落としたり強い衝撃を与えない

破損や故障の原因となります。



タコ足配線しない

発熱、発火する可能性があります。



お子様のいる場所では大人の方が注意を

お子様が居る場所で製品を使用される場合は、製品を放置せず、事故のないよう特別な注意を払ってください。



長時間大音量で使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。聴力低下や耳鳴りなどを感じたら、直ぐに使用を中止し、専門医に相談してください。



異常に気づいたらすぐに電源を切る

以下の場合には、すぐに製品の電源を切り、ACアダプターをコンセントから取り外します。

- ・ ACアダプター、電源コードおよびプラグが破損した場合
- ・ 煙が出たり、異臭が出た場合
- ・ 製品が雨に濡れた場合
- ・ 物体が落下した場合、または液体が溢れた場合
- ・ 製品が動作しない場合、またはパフォーマンスに著しい異常が見られる場合
- ・ 製品を落とした場合



その後、お買い上げ店または Dirigent カスタマーサポートにご相談ください。

バッテリーについて

- ・ バッテリーを、日光、火などの過度の熱にさらさないでください。
- ・ バッテリーや充電器の取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱、火災、または爆発の原因となる可能性があります。使用する前に、バッテリーや充電器の取扱説明書をよく読み、注意事項を厳守してください。また、バッテリーと充電器は、メーカーが指定した組み合わせで使用してください。



注意

ACアダプターおよび電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、コードではなくプラグ自体を持ってACアダプターおよび電源コードを抜いてください。



濡れた手でACアダプターおよび電源コードを抜き差ししない

感電の原因となります。



ACアダプターおよび電源コードのプラグをキレイに保つ

定期的にACアダプターおよび電源コードのプラグを抜き、乾いた布で清掃してください。製品を長時間使用しないときは、コンセントからACアダプターおよび電源コードを抜いてください。



電源コードやケーブルが絡まないように配線する

足にひっかけると製品の落下や故障、怪我の原因となります。



清掃する際はACアダプターおよび電源コードをコンセントから抜く

製品やACアダプターなどをクリーニングする前には、感電や製品の故障を防ぐため、本体の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜いてください。



落雷の恐れがあるときはACアダプターをコンセントから抜く

ACアダプターをコンセントから抜いておかないと、感電や故障の原因となります。



製品の上に乗ったり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、怪我や故障の原因となります。



換気のよい場所に設置する

製品本体およびACアダプターは、それぞれの換気を妨げないように設置してください。



温度が極端に高い場所・地域で使用しない

製品本体およびACアダプターは、温度が極端に高い場所・地域で使用しないでください。



コンセントの近くで使用する

ACアダプターを接続するコンセントは、本体になるべく近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。



バッテリーの取り扱い

バッテリーは、不適切に使用すると、破裂や液漏れが起こり、損傷や怪我を引き起こる可能性があります。安全のため、次の注意事項を読み、厳守してください。

- ・ バッテリーの取り付けは手順に従い極性に注意し、正しく行ってください。
- ・ VIVO S1を長時間使用しない場合は、バッテリーは取り外してください。
- ・ 使用済みのバッテリーと新しいバッテリーと一緒に使用しないでください。また、種類の異なるバッテリーを混ぜて使用しないでください。
- ・ バッテリーに液漏れが生じた場合、柔らかい布やペーパータオルなどで、ソケット内の漏れをすべて拭き取ります。バッテリーの液漏れには、皮膚や肺、目を刺激する物質が含まれている場合がありますのでご注意ください。
- ・ バッテリーを、ボールペンやヘアピンなどの金属物と一緒に保管しないでください。



バッテリーの処分

使用済みのバッテリーは、居住地の規則に従って廃棄してください。



2 使用上の注意

「安全にお使いいただくために」(P.4)に加えて、以下もよくお読みいただき順守してください。



電源について

- 本機を、インバーターまたはモーターを使った電気製品と同じコンセントに接続しないでください。電源ノイズが発生し、誤動作や雑音の原因となります。
- 長時間連続して使用すると、ACアダプターが多少発熱することがありますが、故障ではありません。ACアダプターは換気のよい場所に置いてください。
- 本機を、外部機器と接続する前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認してください。感電や故障の原因となります。
- 本機は、演奏や操作をやめてから120分(2時間)経過すると自動的に電源が切れます(AUTO OFF機能)。自動的にオフにしたくない場合は、P.65の説明に従って、「AUTO OFF設定」をOFFにしてください。

NOTE

AUTO OFF設定は、製品の電源をオフにすることで記憶されます。



お手入れについて

- 本機を清掃するには、柔らかい布をぬるま湯に浸し、よく絞ってから、同じ強さで表面全体を軽く拭きます。同じ部分を何度も強く拭くと、表面に傷がつく恐れがあります。
- 柔らかい布や羽毛でホコリを除いてください。指紋などは、湿らせた柔らかい布で拭いたあと乾いた布で拭くことでキレイになります。ひどい汚れを落とすときは、少量の中性洗剤を使用すると効果的です。研磨剤を含んだものや化学物質を含むものは使用しないでください。
- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。



設置について

- 本機をパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器の近くに設置しないでください。ハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、本機との距離や向きを変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させないでください。テレビやラジオの受信に影響が出る恐れがあります。
- iOSデバイス用の「Dexibell VIVO Editor」を本機と一緒に使用する場合、通信によるノイズを避けるため、iOSデバイスの機内モードをオンしてお使いください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時にノイズが出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 本機を極端に暑い場所(直射日光、暖房器具の近く、日中の車内など)や寒い場所に置かないでください。故障の原因となります。
- 極端に温度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く(結露)することがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。その場合は、数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 本機の上に、ビニールやプラスチック、ゴムなどの物体を、長時間置かないでください。変色や変質の原因となります。
- 鍵盤の上に物を置いたままにしないでください。キーの誤動作の原因となります。
- シールやステッカーを貼らないでください。接着剤により、変色や変質の原因となります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



修理について

- 本機の修理を依頼される際には、事前に事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理にあたって、記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含め一切の責を負いかねますのでご了承ください。



外部メモリーについて

- USBメモリーは、慎重に、また正しい角度でスロットに挿入します。
- USBメモリーの取り扱いには十分注意してください：
 - USBメモリーを取り扱う前に、身体に帯電している静電気を放電してください。
 - USBメモリーの接点には触れないでください。
 - USBメモリーを極端な温度環境に置かないでください。
 - USBメモリーが濡れないようにしてください。
 - USBメモリーを落としたり強い衝撃を与えないでください。
- データの読み込み中や書き込み中に、取り外さないでください。
- USBメモリーの接続に、USBハブは使用しないでください。
- USBメモリーは別売です。市販品をお使いください。
- USBメモリーへの音声データの記録には、USBメモリーが高い持続転送速度をサポートしている必要があります。すべてのUSBメモリーが安定した記録を保証するものではありません。



バッテリー（別売）に関する注意事項

- バッテリーは、赤ちゃんや小さいお子様の手の届かないところに保管してください。
- 強い直射日光の当たる場所や、車の車内、ヒーターの前など、高温な場所で使用・保管をしないでください。バッテリーの液漏れや性能低下を引き起こし、寿命が短くなる可能性があります。
- バッテリーの使用温度範囲はバッテリーによって異なります。ご使用のバッテリーのマニュアルをご参照ください。
- バッテリーに水や塩水をかけたり、端子を湿らせたりしないでください。バッテリーが過熱し、サビが発生することがあります。
- 保護機構やその他の部品を改造しないでください。
- バッテリーを分解したり落としたりしないでください。強い衝撃は、液漏れ、発熱、破裂または火災などを引き起こす可能性があります。



著作権および商標について

- Dexibell は、お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、一切の法的責任を負いません。
- 第三者の著作物（音楽作品、ライブパフォーマンスなど）の一部または全部を、著作権所有者の許可なしに、録音、複製、配布することは法律で禁止されています。
- iPad® および iPhone® は、Apple Inc. の登録商標です。
- App StoreSM は、Apple Inc. のサービスマークです。
- Bluetooth® は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。



その他の注意事項

- 記憶した内容は、機器の故障や誤操作などにより失われる可能性があります。データの損失を防ぐため、大切なデータは USB メモリーなどに定期的にバックアップをしてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、Dexibell は、補償も含め一切の責を負いかねますのでご了承ください。
- ボタンやスイッチ、スライダーおよびコネクタなどは、過度の力を加えないでください。故障の原因となる可能性があります。
- ケーブルを外すときは、ショートや断線を防ぐため常にコネクタ部分を持って抜いてください。
- 周囲に迷惑がかからないように、音量に十分に注意してください。必要であればヘッドフォンをお使いください。
- 本機を輸送する場合は、入っていた箱や緩衝材、または同等の梱包材を使用してください。また、輸送、移動の際は常に二名以上で持ち運んでください。
- 損傷を防ぐため、譜面立てに無理な力を加えないでください。
- 本機を接続する際は、低インピーダンスのケーブルを使用してください。抵抗入りのケーブルを使用すると、音量が極端に低くなるか、聞こえない可能性があります。

本マニュアル内のマークの例

本書中のマークは次のような意味があります。

NOTE

重要な注意事項を表します。必ずお読みください。

MEMO

設定や機能に関するメモを表します。

TIPS

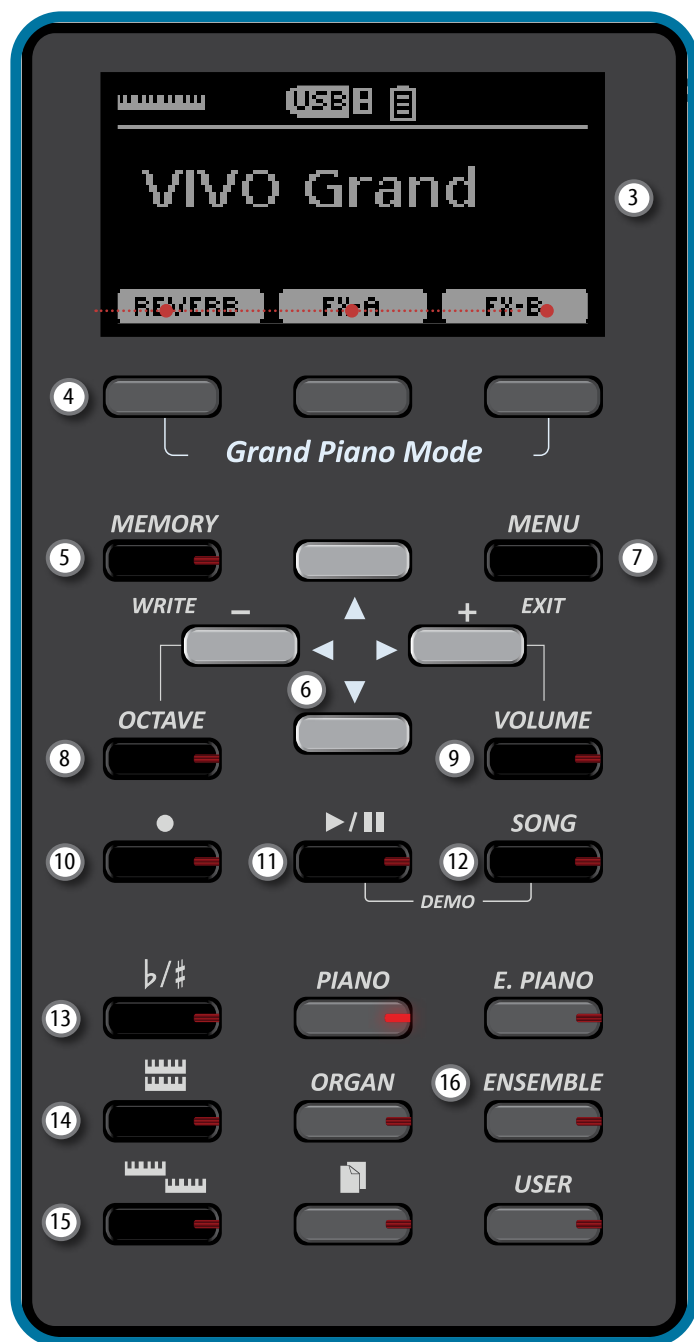
操作に役立つヒントを表します。必要に応じてお読みください。

もくじ

安全にお使いいただくために	4
使用上のご注意	5
各部の名称とはたらき	8
周辺機器との接続	11
クイック・ガイド	12
演奏する前に	14
ACアダプターを接続する	14
電池の入れ方	14
電池の残量表示	14
電池の連続動作時間	14
ペダルを接続する	15
外部アンプ機器と接続する	15
ヘッドフォンを使う	15
デジタル・オーディオプレイヤーと接続する	16
パソコンと接続する	16
USBメモリーを接続する	16
USBメモリーを安全に取り外す	16
USB MIDIインターフェースと接続する	17
アースをとる	17
電源をオンにする	17
電源をオフにする	18
VIVO S1のデモ演奏を聴く	18
基本操作	19
メイン画面	19
データやファイルに名前をつける	20
カーソルの操作とパラメーター値の設定	20
音色を選ぶ	21
グランドピアノ・モード	21
音色の選びかた	21
よく使う音色の登録(お気に入り登録)	21
2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー)	22
鍵域を分割して2種類の音色で演奏する(スプリット)	22
鍵盤を分割して、3パートで演奏する	22
スプリットポイントを変更する	23
LOWER/パートをミュートする	23
音色MIDI情報	23
音色を追加する(サウンド・ライブラリー)	24
ユーザー・サウンド・ライブラリーのインポート	24
USBメモリーのサウンド・ライブラリーをインポートする	24
インポートする前に、サウンド・ライブラリーを視聴する	24
サウンド・ライブラリーをインポートする	24
ユーザー音色を選ぶ	24
ユーザー・サウンド・ライブラリーの削除	25
エフェクトをかける	26
サウンド・エフェクトについて	26
リバーブをかける	26
リバーブタイプを変更する	26
音色をカスタマイズする(T2L)	27
T2Lパラメーター	27
音色のカスタマイズ	29
変更を保存する	29
その他の機能	30
トランスポーズ	30
オクターブシフト	30
パートごとの音量を調節する	30
キータッチを設定する	30
オーディオ入力レベルを調節する	31
マスター・イコライザー	31
プリセットのマスターEQを選ぶ	31
ユーザー・プリセットに保存する	31
工場出荷時の状態に戻す(Factory Reset)	32
データのバックアップ	32
データをUSBメモリーにバックアップする	32
バックアップ・データに戻す	32
ソング・プレイヤー	33

曲の再生	33
曲をロードする	33
インターナル・メモリーの曲をロードする	33
USBメモリーからロードする	33
ロードした曲を再生する	33
曲のコントロール	34
演奏を録音する	35
オーディオ・データとして録音する(WAVE)	35
多重録音する(オーバーダブ)	35
メモリーとメモリーセット	36
メモリーとメモリー構造	36
インターナル・メモリーに設定を保存する	36
インターナル・メモリーから設定を呼び出す	36
USBメモリーに設定を保存する	36
USBメモリーから設定を呼び出す	38
メモリーの名前を書き換える	38
USBメモリーにメモリーセットをエクスポートする	39
USBメモリーからメモリーセットをインポートする	39
USB MIDI キーボード・コントローラー	40
MIDIゾーンを有効にする	40
MIDIゾーンを構成する	40
オーディオデータと合わせて演奏する	41
モバイル機器と接続する	41
X MUREアプリを使って演奏する	41
ファンクション・メニュー	42
基本操作	42
付録	50
エフェクト・タイプとパラメーター・リスト	50
VIVO S1 音色リスト	52
トラブルシューティング	53
技術仕様	54
インデックス	55

3 各部の名称とはたらき



- ① 電源ボタン**
電源をオン/オフします。(→ P.17)
初期設定では、VIVO S1を約2時間操作をしないと、自動的に電源がオフになります。
電源が自動でオフになった場合は、電源ボタンで再び電源をオンにできます。自動で電源がオフにならないようにするには、「Auto OFF」の設定を「OFF」にしてください。(→ P.49)
NOTE
電源がオンの間は、電源コードを抜かないでください。故障の原因になります。
- ② [VOLUME] ノブ**
VIVO S1全体の音量を調節します。
- ③ ディスプレイ**
操作に関する情報を表示します。
- ④ ファンクション・ボタン**
ディスプレイに表示される3つの機能に対応しています。ボタンを押して、いずれかを機能を選びます。
- ⑤ [MEMORY/WRITE] ボタン**
メモリーの内容を表示したり、メモリーを呼び出したりします。ボタンを押し続けると、設定をメモリーに書き込みます。(→ P.36)
- ⑥ カーソル・ボタン**
ディスプレイに表示された設定項目を移動したり、パラメーターの値を変更したりします。
- ⑦ [MENU/EXIT] ボタン**
メニュー画面を開いたり、現在の画面から抜けます。
- ⑧ [OCTAVE] ボタン**
オクターブシフトの設定画面に入ります。パートごとにオクターブシフトの値を設定できます。(→ P.30)



9 [VOLUME] ボタン
音量的設定画面を開きます。パートごとの音量を設定できます。
(→ P.30)

10 [●] ボタン
曲の録音をスタートまたはストップします。(→ P.35)

11 [▶/||] ボタン
曲を再生します。もう一度押すと、曲が停止します。(→ P.33)
[SONG] ボタンと同時に押すと、デモソングを再生します。

12 [SONG] ボタン
ボタンを押すと、ソングモードになります。(→ P.33)
[▶/||] ボタンと同時に押すと、デモソングを再生します。

13 [b/#] ボタン
トランスポーズ設定画面を表示します。この設定は、鍵盤全体に有効です。(→ P.30)
設定値が0以外するとき(トランスポーズしているとき)は、ボタンが点灯します。

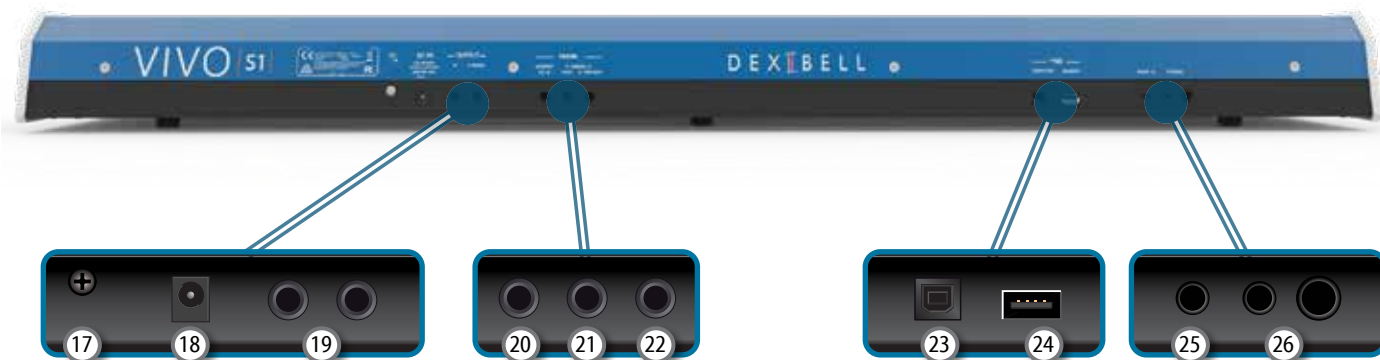
14 [] ボタン
鍵盤のレイヤーのオン/オフを切り替えます。(→ P.22)

15 [] ボタン
スプリットのオン/オフを切り替えます。(→ P.22)

16 音色カテゴリーボタン
カテゴリーごとの音色を選びます。



リア・パネル



17 Ground端子

お使いの環境によって、楽器を触るとピリピリした刺激を感じる場合は、この端子からアースをとることでこの症状を軽減することができます。(→P.17)

18 DC IN端子

ACアダプターを接続します。(→P.14)

19 OUTPUT R、L/MONO 端子

外部スピーカーやアンプなどの外部機器と接続し、外部機器から音を出します。

20 DAMPER PEDAL (HOLD) 端子

ダンパーペダルまたはサスティンペダルを接続します。(→P.15)

NOTE

表現の幅を広げるために、常にペダルをご使用になることをお勧めします。

21 ASSIGN 1 PEDAL (FOOT) 端子

フットスイッチを接続すると、アサインした機能をフットペダルでコントロールできます。(→P.44)

このペダルに接続できるのは、スイッチタイプ (ON/OFFタイプ) のフットペダルのみです。

22 ASSIGN 2 PEDAL (EXPRESSION) 端子

フットスイッチを接続すると、アサインした機能をフットペダルでコントロールできます。(→P.45)

この端子は、接続した機器を自動的にエクスプレッションペダルと認識します。現在アサインしている機能に関わらず、エクスプレッションの効果がかかります。

23 USB Computer端子

市販のUSBケーブルを使って、VIVO S1とパソコンを接続します。(→P.16)

24 USB Memory端子 (MIDI インターフェース)

USBメモリーを接続したり (→P.16)、USB MIDIインターフェースを接続して、VIVO S1に外部キーボードやMIDI機器を接続します。(→P.17)

NOTE

- USBメモリーを接続の際は、差し込む方向にご確認ください
- Dexibell社はアクティブ/パッシブに関わらず、USBハブの使用はお勧めしておりません。

25 AUDIO IN端子

ミニジャックを接続し、CDやオーディオ・プレイヤーなどの外部オーディオ信号をVIVO S1に入力します。

26 PHONES端子

ヘッドフォンを接続します。

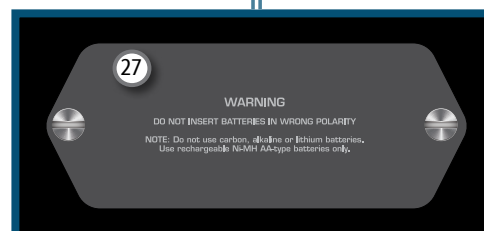
バッテリーケース

裏側



27 バッテリーケース

S1は電池で使うことができます。市販のニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形を8個挿入します。(→P.14)



4 周辺機器との接続



5 クイック・ガイド

エフェクト (FX-A、FX-B)

エフェクトに関する設定をするために、エフェクトの編集画面を開いたり閉じたりします。

リバーブ

音の残響 (リバーブ) を調節します。

ファンクション・ボタンを押して、ディスプレイに表示されているREVERBの項目を選びます。

[▲] [▼] ボタンと [◀] [▶] ボタンで、リバーブに関する設定をします。

ファンクション・ボタン

ディスプレイに表示される項目と対応しており、このボタンを押して項目を選びます。

グランドピアノ・モード

ピアノ音色で演奏するとき、それまでのVIVO S1の設定をリセットします。

メイン画面が表示されている状態で、左端と右端のボタンを同時に押します。

Menu/Exit

いろいろなパラメーターを設定するために、メニュー画面を開いたり閉じたりします。

パートごとの音量を調節する

音量編集画面を開きます。

[▲] [▼] ボタンでパートを選びます。

[◀] [▶] ボタンで値を設定します。

設定の保存と呼び出し

楽器全体の設定を登録する

VIVO S1の設定を記憶して、必要な時に簡単に呼び出すことができます。最大80個の設定を記憶できます。

設定を記憶する

1. [MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けて、メモリー画面に入ります。
2. [▲] [▼] ボタンで設定を記憶させるメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでSAVEを選び、[▲] [▼] ボタンと [◀] [▶] ボタンで名前を設定します。
4. ファンクション・ボタンでOKを選びます。

設定を呼び出す (→ P.36)

1. [MEMORY] ボタンを押して、メモリー画面に入ります。
2. [▲] [▼] ボタンで呼び出すメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。

MEMO

設定をUSBメモリーに直接記憶したり、USBメモリーから呼び出したりすることもできます。


パートごとのオクターブシフト設定

ボタンを押すと、オクターブシフトの設定画面に入ります。

[▲] [▼] ボタンパートを選びます。

[◀] [▶] ボタンで値を設定します。

電源ボタン

[] ボタンを押して、電源をオンにします。(→ P.17)

音量を調節する

ノブを回して音量を調節します。

曲を選んで再生する

[SONG] ボタンを押すとソング・モードになり、ディスプレイにソング画面が表示されます。(→ P.33)

1. ファンクション・ボタンでSONG LISTを選びます。
2. [▲] [▼] ボタンで曲を選びます。
3. [▶/||] ボタンを押すと、曲の再生が始まります。

デモソングを聴く

[▶/||] ボタンと [SONG] ボタンを同時に押します。

音色を選ぶ

いずれかのカテゴリ・ボタンを押します。

[▲] [▼] ボタンで音色を選びます。

[◀] [▶] ボタンで、他のカテゴリを選びます。(→ P.21)

お気に入り音色の登録

登録する音色のカテゴリ・ボタンを押し続けます。(→ P.21)

トランスポーズする

[b/♯] ボタンを押すと、トランスポーズ設定画面に入ります。

[◀] [▶] ボタンで値を設定します。(→ P.30)



演奏を録音する

[●] ボタンを押すと、録音が始まります。

もう一度 [●] ボタンを押すと、録音が終了します。


ここで録音したデータを、USBメモリーに保存できます。(→ P.35)

キーボード・モード

電源をオンにしたとき、すべての鍵域でピアノの音で演奏できます。このとき [] ボタンと [] ボタンのライトは消灯しています。


音色 A



[] ボタンを押すと、すべての鍵域で2種類の音色を重ねて演奏できます。

音色 A + 音色 B



[] ボタンを押すと、鍵盤が左右でスプリット (分割) され、左右の鍵域でそれぞれ異なる音色で演奏できます。

音色 C | 音色 A



スプリット・ポイント

6 演奏する前に

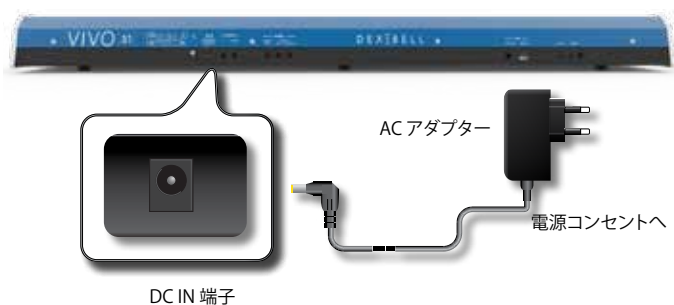
ACアダプターを接続する

VIVO S1をお使いになるには、付属のACアダプターまたは市販のニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形を使用して、VIVO S1に電源を供給します。

1. [VOLUME] ノブを左に回して音量を最小にします。



2. ACアダプターをVIVO S1のリア・パネルにあるDC IN端子に接続します。



NOTE

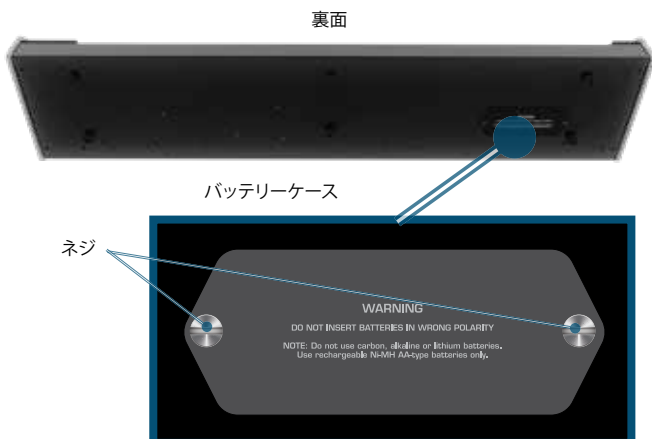
- 地域によっては、付属のACアダプターの形状が上記の図と異なります。
- 必ず付属のACアダプターをご使用ください。また、設置場所の電源電圧がACアダプター本体に指定されている入力電圧と一致していることを確認してください。付属品以外のACアダプターは、異なる極性や電圧用に設計されている場合があり、損傷、誤動作、または感電の原因となります。
- VIVO S1を長期間使用しない場合は、電源コードを電源コンセントから抜いてください。
- 誤動作を防ぐため、機器の電源が入っているときにACアダプターを取り外さないでください。

3. ACアダプターをコンセントに接続します。

電池の入れ方

本体裏面にあるバッテリーケースに、市販のニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形が8個入ります。電池を使うと、ACアダプターを接続せずにVIVO S1を演奏できます。

1. VIVO S1の電源をオフにします。
2. バッテリーケースは、本体の裏面にあります。本体を傷つけないように、柔らかい布などの上に置いてVIVO S1を裏返します。



3. コインなどを使って、バッテリーケースのカバー両端にあるネジを外し、カバーを持ち上げます。
4. 「+」と「-」の向きに注意して、8個のニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形をバッテリーケースに挿入します。

NOTE

必ず、ニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形を使用してください。カーボン、アルカリ、リチウム電池は使用できません。

5. バッテリーケースのカバーを戻し、コインなどを使ってカバー両端のネジを締めます。

NOTE

- 充電電池は、VIVO S1のバッテリーケースに入れたままでは充電できません。かならずVIVO S1から取り外して、外部充電器を使って充電してください。
- 電池を挿入するときは、極性に注意し、かならず正しい方向に挿入してください。
- VIVO S1を長期間使用しないときは、電池をバッテリーケースから取り外してください。

電池の残量表示

ディスプレイに、電池の残量がアイコンで表示されます。

アイコン	説明
	電池の残量が十分にある状態です。
	電池の残量はおよそ半分です。
	電池の残量が減ってきています。
	警告表示です。できるだけ早く電池を交換してください。

NOTE

- 電池の使用で、ディスプレイに「System will turn off in a few minutes」(システムは数分でオフになります) というメッセージが表示された場合は、すぐに電池を交換するか、付属のACアダプターを接続してください。
- 電池の残量表示は目安です。

電池の連続動作時間

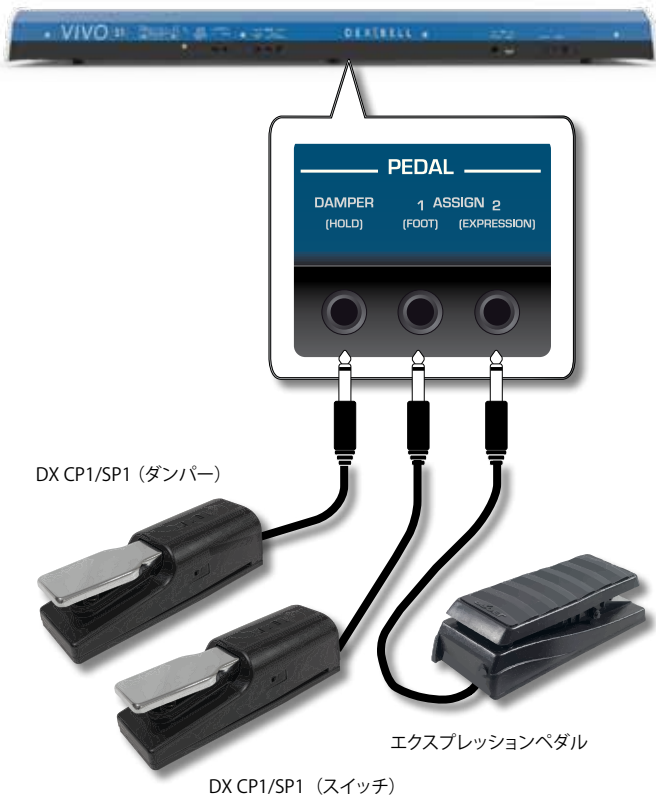
新しい充電電池を完全に充電した状態で使用の場合、約4時間VIVO S1を連続して動作させることができます (ニッケル水素充電電池 (Ni-MH) 単3形の場合)。

NOTE

- 実際の電池寿命は、使用条件や電池の品質、充電の頻度や回数によって異なります。
- 通常、充電式の電池は複数回充電して使うことができますが、徐々に1度の充電で使用できる時間が短くなります。充電を繰り返して使用するうちに、完全に充電しても1時間しか使えなくなることもあります。電池の使用時間が極端に減った場合は、新しいものと交換してください。

ペダルを接続する

リア・パネル



DX CP1/SP1 (ダンパー)

DX CP1/SP1 (スイッチ)

エクスプレッションペダル

1. サステインペダルをDAMPER (HOLD) 端子に接続します。

演奏中にサステインペダルを踏むと、鍵盤を離しても音が自然に消えるまで鳴り続けます。

NOTE

- ・ ピアノ音色の減衰を再現するには、スイッチ (オン/オフ) タイプのペダルではなく、連続タイプのペダルを接続することをお勧めします。
- ・ DAMPER (HOLD) 端子には、スイッチ (オン/オフ) タイプと連続タイプ、どちらのタイプのペダルも接続できます。

2. ASSIGN 1 端子にフットペダルを接続します。

ASSIGN 1に接続したフットペダルを使って、様々な機能をコントロールできます。詳細は「PEDAL ASSIGN 1」(P.44)をご参照ください。

NOTE

ASSIGN 1端子に接続できるのは、スイッチ (オン/オフ) タイプのフットペダルのみです

3. エクスプレッションペダルをASSIGN 2 (EXPRESSION) 端子に接続します。

エクスプレッションペダルでは様々なパラメーターをコントロールできますが、一般的に音量のコントロールに使われます。

エクスプレッションペダルの自動認識

ASSIGN 2 (EXPRESSION) 端子は、現在アサインされている機能に関わらず、接続されたペダルをエクスプレッションペダルと自動的に認識し、エクスプレッション機能を設定します。

アサインできる機能の一覧は「PEDAL ASSIGN 2」(P.45)をご参照ください。

NOTE

ASSIGN 2端子には、スイッチ (オン/オフ) タイプと連続タイプ、どちらのタイプのペダルも接続できます。連続タイプのペダルを接続した場合、自動的にエクスプレッションペダルと認識されます。

外部アンプ機器と接続する

OUTPUT R/L/MONO端子にアンプやミキシング・コンソールなどの外部機器を接続できます。

NOTE

1チャンネルのみを外部アンプに接続する場合は、L/MONO端子に接続します。最適な音質を得るためには、ステレオで接続することをお勧めします。

1. [VOLUME] ノブを左に回して、音量を最小にします。
2. VIVO S1のOUTPUT端子と接続する外部機器の入力端子を接続します。

リア・パネル



ヘッドフォンを使う

ヘッドフォンを使うと、時間や周りの人に気兼ねなく演奏を楽しむことができます。

1. ヘッドフォンを接続します。

VIVO S1は2つのヘッドフォン端子 (標準ステレオ x 1、ステレオミニ x 1) があり、2人同時に音を聴けます。



DX-HF7 (ヘッドフォン)

2. ヘッドフォンの音量は [VOLUME] ノブで調節します。

ヘッドフォン使用時のご注意

- ヘッドフォンはコード内部の損傷を防ぐため、乱暴に取り扱わないでください。ヘッドフォンの抜き差しは、プラグまたはヘッドセットを持っておこない、コードを引っ張らないようにしてください
- VIVO S1の音量が大きい状態でヘッドフォンを接続すると、ヘッドフォンが破損する恐れがあります。ヘッドフォンを接続する際は、VIVO S1の音量を最小にした状態で接続してください。
- 大音量での再生は聴覚に影響を及ぼすだけでなく、ヘッドフォンにも負担をかけます。常識的な音量でお楽しみください。

デジタル・オーディオプレイヤーと接続する

INPUT 端子にオーディオプレイヤーを接続し、オーディオプレイヤーで再生した曲をVIVO S1のOUTPUT端子から出力できます。

1. [VOLUME] ノブを左に回して、音量を最小にします。
2. VIVO S1のAUDIO INミニ端子に、デジタル・オーディオプレイヤーの出力を接続します。



MEMO

VIVO S1のINPUT端子に接続した外部機器の音量を調節できます。詳細は「AUDIO INPUT」(P.47) をご参照ください。

パソコンと接続する

USBケーブル (別売) を使用して、リア・パネルのUSB Computer端子とパソコンのUSB端子を接続すると、MIDIソフトウェア (DAWソフトウェア) でオーディオやMIDIデータを録音/再生できます。

NOTE

- 接続には、A-BタイプのUSBケーブル (別売) が必要です。
- VIVO S1はGM/GS標準をサポートしていません。

1. A-BタイプのUSBケーブルで、VIVO S1とパソコンを接続します。



NOTE

- 外部機器と接続する際は、誤動作や損傷の恐れがあるため、必ずすべての機器の音量を最小にし、機器の電源を切った状態で接続してください。
- USBで送受信できるのはMIDIデータのみです。オーディオデータの送受信はできません。
- パソコンでMIDIアプリケーション・ソフトを起動する前に、VIVO S1の電源をオンにしてください。MIDIアプリケーション・ソフトの実行中に、VIVO S1の電源をオン/オフしないでください。

USBメモリーを接続する

1. USBメモリーをVIVO S1のリア・パネルにあるUSB Memory端子に接続します。



NOTE

USBメモリーは差し込む向きを確認し、正しい方向で挿入してください。

USBメモリーを安全に取り外す

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ずこの「USB REMOVE」操作をしてください。

1. [MENU] ボタンを押します。
2. [▲] [▼] ボタンでリストをスクロールし、「USB REMOVE」を選びます。
3. [▶] ボタンを押します。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



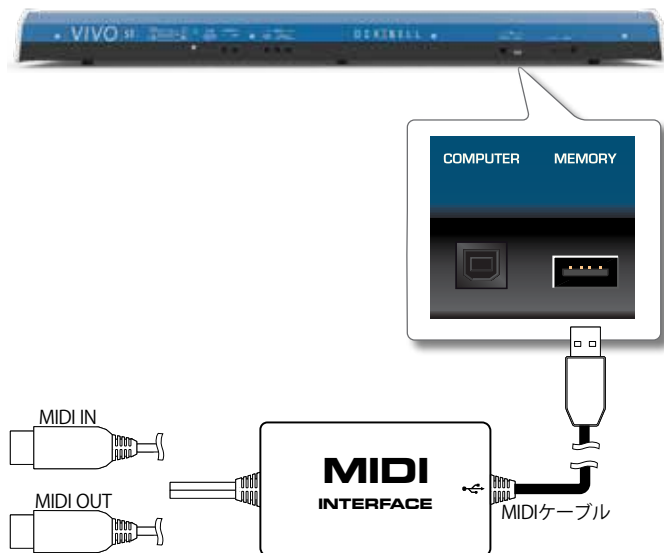
4. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
USBメモリーを安全に取り外すことができます。

USB MIDIインターフェースと接続する

MIDIは電子楽器の標準規格です。MIDIケーブルを使って他の機器と接続することで、機器の種類やメーカーを問わず、音楽データをやりとりすることができます。

VIVO S1のUSB MEMORY端子に、MIDIインターフェース（別売）接続します。

1. VIVO S1のリア・パネルにあるUSB MEMORY端子とMIDIインターフェース（別売）を接続します。
2. MIDIケーブルを使ってMIDIインターフェースのMIDI IN端子とキーボードなどの外部機器のMIDI OUT端子を接続します。
3. 別のMIDIケーブルを使ってMIDIインターフェースのMIDI OUT端子とキーボードなどの外部機器のMIDI IN端子を接続します。



アースをとる

お使いの環境によって、楽器を触るとビリビリした刺激を感じる場合は、この端子からアースをとることで、症状をなくすことができます。



ネジ式のアース端子を使用してアースに接続するか、外部のミキサーやプリアンプなどの外部機器のシャーシに接続します。

電源をオンにする

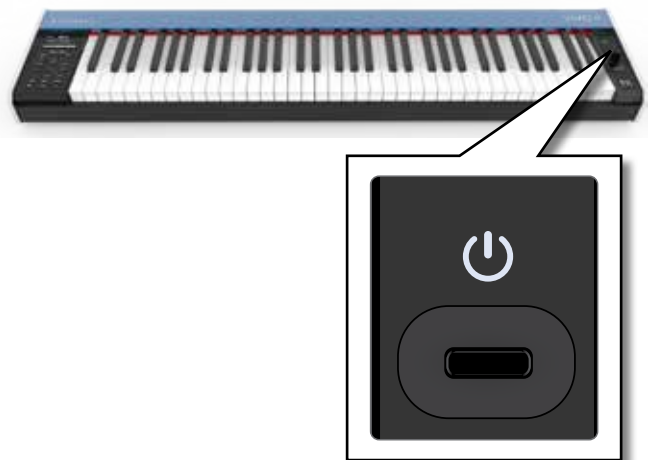
すべての接続が終わったら、次の手順に従って電源をオンにしてください。

1. [VOLUME] ノブを左に回し、音量を最小にします。

NOTE

VIVO S1の電源をオン/オフする際は、必ずVIVO S1の音量を最小にしてください。音量を下げても電源をオン/オフする際に音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

2. VIVO S1のフロント・パネル右側にある [⏻] ボタンを押して、電源をオンにします。



電源が入り、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



しばらくするとメイン画面が表示され、演奏ができる状態になります。



- [VOLUME] ノブを回して音量を調節します。

NOTE

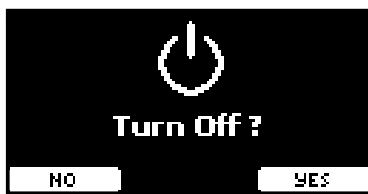
保護回路の働きにより、電源をオンにしてから音を出す状態になるまでに、数秒の時間がかかります。

電源をオフにする

NOTE

誤動作を避けるために、機器の電源が入っている間は決してACアダプターを抜かないでください。

- [VOLUME] ノブを左に回し、音量を最小にします。
- VIVO S1の [] 電源ボタンを押します。



- ファンクション・ボタンでYESを選びます。
ディスプレイに次のようなメッセージが表示され、数秒後に電源がオフになります。
電源をオフにしない場合は、NOを選びます。



NOTE

電源を完全にオフにするには、まず [] ボタンを押して電源をオフにしてから、電源コードをコンセントから抜いてください。「ACアダプターを接続する」(P.14) をご参照ください。

**電源がオンの状態で一定時間何も操作がないと、
VIVO S1 は自動的に電源がオフになります。
自動で電源をオフにたくない場合は、
「AUTO OFF」の設定を「OFF」にしてください。**

**初期設定では、VIVO S1を最後に操作してから120分後に電源が自動的に
オフになります。**

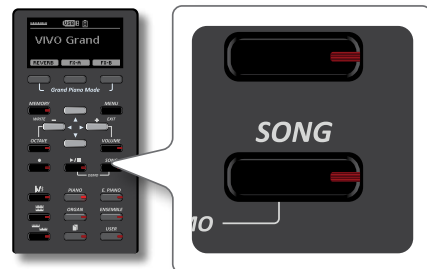
自動的に電源がオフになる少し前に、ディスプレイに電源がオフになるまでの時間をカウントダウン表示します。電源をオフにしない場合は、いずれかの鍵盤またはボタンを押してください。

電源を自動的にオフにしない場合は、「AUTO OFF」の設定を「OFF」に変更してください。詳細は「GLOBAL」(P.55) をご参照ください。

VIVO S1のデモ演奏を聴く

VIVO S1の音色を紹介する、デモ曲が内蔵されています。

- [▶/||] ボタンと [SONG] ボタンを同時に押します。
デモ曲が再生されます。



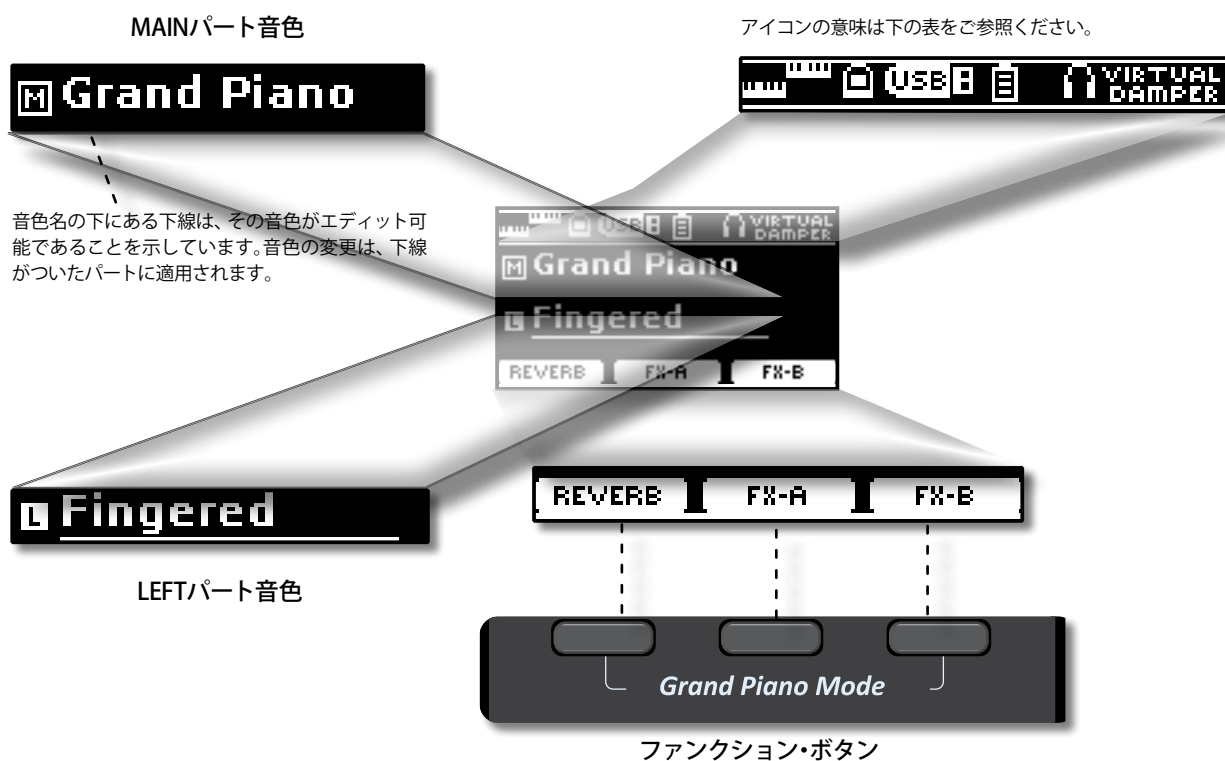
- [MENU/EXIT] ボタンを押すと、デモ機能を終了します。

NOTE

すべてのデモ曲データはDexibell社が著作権を所有しています。個人的に楽しむ以外の目的でデモ曲データを許可なく使用することは、著作権法に違反します。

7 基本操作

メイン画面



ディスプレイに表示される、最大3つの機能や項目を選びます。

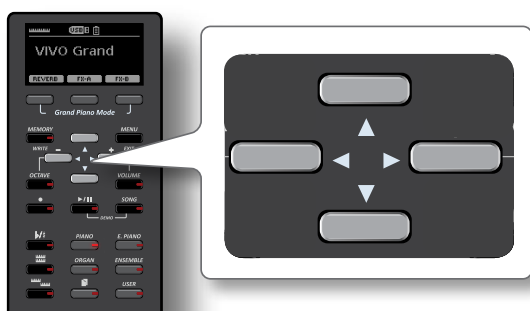
アイコン	説明	アイコン	説明
	キーボード・モード: ・スプリット ・レイヤー ・スプリット+レイヤー		電池の残量を表示します。
			ヘッドフォン端子にヘッドフォンが接続されています。
			パソコンがVIVO S1のUSB Computer端子に接続されています。
			Virtual Damper functionがオンになっています。「Virtual Damper」(P.44)をご参照ください。
	USBメモリーが接続されています。		

カーソルの操作とパラメーター値の設定

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、メニュー画面に入ります。



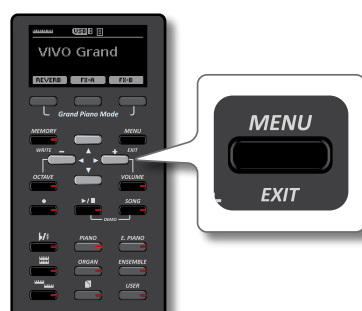
2. [▲][▼] ボタンでファンクション・グループを選びます。



3. [▶] ボタンを押して、選んだファンクション・グループに入ります。



4. [▲][▼] ボタンでパラメーターの一覧をスクロールします。選んでいるパラメーターの下に下線が付きま。
5. [◀][▶] ボタンでパラメーターの値を設定します。
6. [MENU/EXIT] ボタンを押して、メイン画面に戻ります。



データやファイルに名前をつける

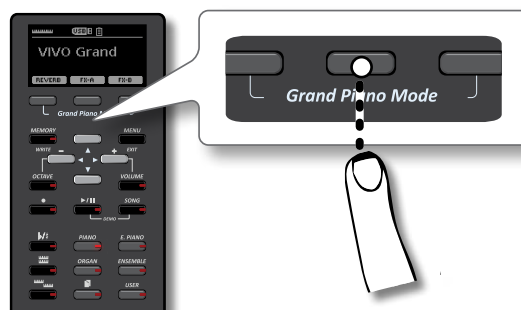
ファイルやパラメーターに名前を付ける方法を、メモリーに名前をつける場合を例にとって説明します。

メモリーの保存を選ぶと、ディスプレイには次のような画面が表示されます。初めは VIVO S1 が選んだ名前が表示されます。

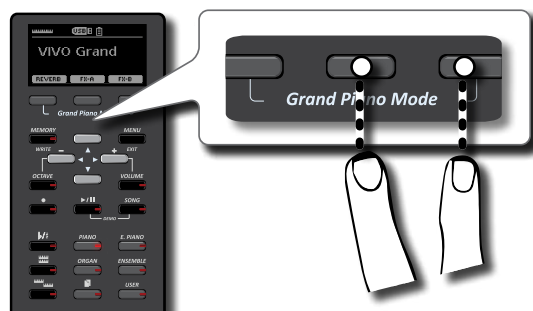


1. [◀][▶] ボタンで変更する文字にカーソルをあわせ、[▲][▼] ボタンで文字を選びます。

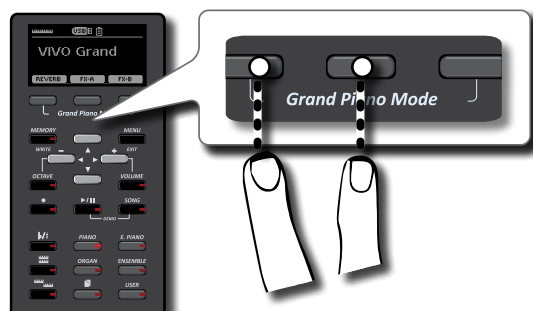
ファンクション・ボタンを押して A/a/# を選ぶと、入力文字の 大文字/小文字/数字 を切り替えることができます。



選んだ文字を削除するには、真ん中と右側のファンクション・ボタンを同時に押します。



文字を挿入するには、左側と真ん中のファンクション・ボタンを同時に押します。



2. 上記操作を繰り返して名前をつけます。

8 音色を選ぶ

VIVO S1には幅広い種類の、高品質な音色が内蔵されています。特にピアノの音色は、新たに開発した音源により、アコースティックピアノの微妙なニュアンスを忠実に再現しています。

音色は6つのカテゴリーに分類されていて、3つのパートに音色を割り当てることができます。

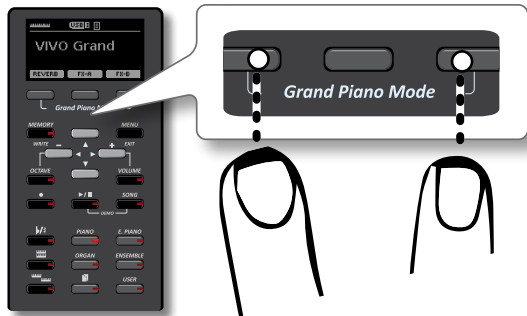
音色の設定は、ディスプレイで下線がついたパート (MAIN、COUPLED、LOWER) に対して適用されます。

グランドピアノ・モード

NOTE

電源をオンにすると、自動的にグランドピアノ・モードになります。

1. ディスプレイにメイン画面が表示された状態で、左右両端のファンクション・ボタンを同時に押します。



グランドピアノの音色が呼び出され、VIVO S1の各種設定が、グランドピアノに最適な設定になります。

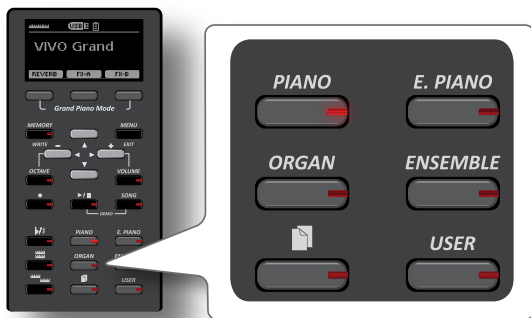
すべての鍵域を、グランドピアノ音色で演奏できる状態になります。

MAIN/パート



音色の選びかた

1. 選ぶ音色の入ったカテゴリーボタンを押します。



選んだカテゴリーの中で、最近使われた音が呼び出されます。

ボタンが点灯し、ディスプレイには一時的に、選んだ音色名が下線付きで表示されます。

次の図は [E. PIANO] ボタンを押した場合の例です。



MEMO

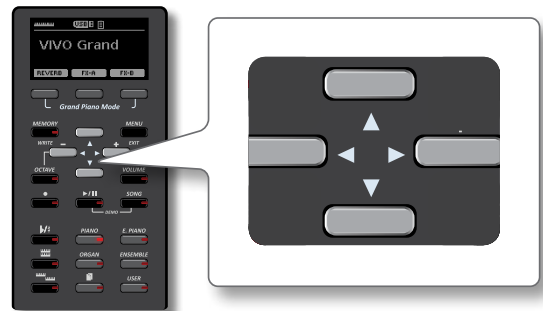
- ディスプレイに音色名が表示されている状態で [▲] [▼] ボタンを押すと、同じカテゴリーの次または前の音色を選べます。
- 操作中に自動的に画面が閉じた場合は、もう一度音色ボタンを押してください。
- 選べる音色は、「VIVO S1 音色リスト」(P.52) をご参照ください。

2. 鍵盤を弾きます。

選んだ音色で演奏できます。

MEMO

各カテゴリーで最後に選んだ音色は一時的に記憶され、カテゴリー・ボタンを押すたびに最後に選んでいた音が呼び出されます。



3. 他の音色を選ぶには、音色選択画面が表示されている状態で [◀] [▶] ボタンを押して隣のカテゴリーを選ぶか、カテゴリーボタンを押して他のカテゴリーを選びます。

一定時間操作をしないと、ディスプレイはメイン画面の表示に戻ります。

TIPS

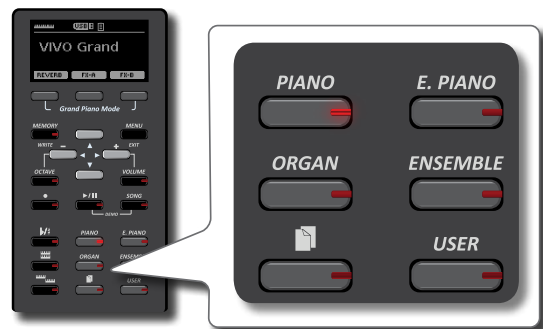
メイン画面で [◀] [▶] ボタンを押すと、同じカテゴリー内の次または前の音色を選べます。

よく使う音色の登録 (お気に入り登録)

よく使う音色を簡単に呼び出すことができる機能です。6つのカテゴリーごとにそれぞれ1音色を登録でき、カテゴリー・ボタンを押すだけで簡単に呼び出せます。

1. 登録する音色を選びます。
2. 選んだ音色のカテゴリー・ボタンを押し続けます。

選んでいる音色がお気に入りとして登録されます。



ディスプレイに確認のメッセージが表示されます。

選んだ音色が記憶され、対応するカテゴリー・ボタンを押すことで、この音色を呼び出します。

この設定は電源を切っても保持されます。

2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー)

鍵盤を弾くとき、2種類の音色を重ねて演奏することができます。

1. [] ボタンを押します。
鍵盤全体に2番目の音色 (COUPLED/パート) が追加されます。



ディスプレイには下図のように表示されます。



メイン画面の [C] フィールドに下線が付き、このパートの音色選択が有効であることを示しています。

NOTE


音色を変更する際は、メイン画面で音色変更が有効になっているパートを確認してから変更してください。音色変更は下線のついたパートに対して有効です。

MEMO

- MAIN/パートを選ぶには、メイン画面で [▲] [▼] ボタンを使って選びます。
- MAIN/パート、COUPLED/パートの音色を変更するには、「音色を選ぶ」(P.21) をご参照ください。
- COUPLED/パートの鍵盤領域を設定できます。詳細は「COUPLED SETTING」(P.43) をご参照ください。

鍵域を分割して2種類の音色で演奏する(スプリット)

スプリット・モードでは、鍵盤を左右に分割して、それぞれ異なる音色で演奏できます。

1. [] ボタンを押します。



スプリット・ポイントを境に鍵盤が左右2パートに分かれます。

スプリット・ポイントより左側がLOWERパート、スプリット・ポイントより右側がMAINパートになり、左右異なる音色で演奏できます。

ディスプレイには次のような画面が表示されます。



メイン画面の [L] フィールドに下線が付き、このパートの音色選択が有効であることを示しています。

MEMO

- スプリットポイントを変更するには「スプリットポイントを変更する」(P.23) をご参照ください。
- MAIN/パートを選ぶには、メイン画面で [▲] [▼] ボタンを使って選びます。
- MAIN/パート、LOWER/パートの音色を変更するには、「音色を選ぶ」(P.21) をご参照ください。

鍵盤を分割して、3パートで演奏する

鍵盤領域を2つに分割し、3つのパートの音色で演奏できます。

1. [] ボタンと [] ボタンを同時に押します。





ディスプレイには次のような画面が表示されます。



メイン画面の [M] フィールドに下線が付き、このパートの音色選択が有効であることを示しています。

MEMO

- スプリットポイントを変更するには「スプリットポイントを変更する」(P.23)をご参照ください。
- 音色を変更するには、メイン画面が表示されている状態で [▲] [▼] ボタンを使ってパートを選び、音色を変更します。「音色を選ぶ」(P.21)をご参照ください。

スプリットポイントを変更する

1. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで [] ボタンを押し続けます。



2. [◀] [▶] ボタンでスプリットポイントを選ぶか、スプリットポイントに設定する音の鍵盤を弾きます。

パラメーター	設定値
Split Point	F1 ~ C#7

3. ファンクションボタンで ◀ を選ぶか [MENU/EXIT] ボタンを押して、メイン画面に戻ります。

LOWERパートをミュートする

LOWERパートの音をミュート(消音)できます。MIDI接続した外部デバイスのみを再生する場合に便利です。

1. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで [] ボタンを押し続けます。
スプリット・モード編集画面に入ります。



2. ファンクション・ボタンで MUTE ON を選びます。
LOWERパートがミュートされ、音が出なくなります。



3. ミュートを解除するには、ファンクション・ボタンで MUTE OFF を選びます。



音色MIDI情報

MIDI経由で音色を選ぶことができます。このとき、通常は表示されない内部アドレスを使用します。

シーケンサーや外部MIDIアプリケーションからVIVO S1内部の音色を指定する場合、この内部アドレス(音色のCC00、CC32、PCの値)が必要となります。内部アドレスは巻末の「VIVO S1 音色リスト」(P.52)に記載していますが、VIVO S1本体からは以下の方法で調べることができます。

1. 音色を選びます。

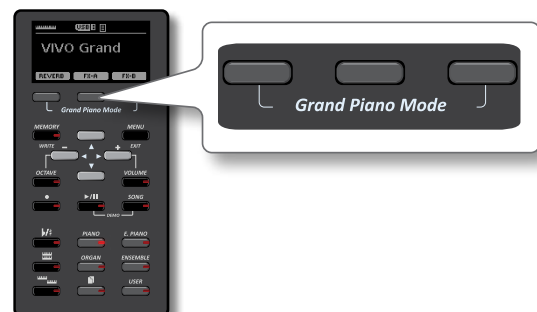
「音色の選びかた」(P.21)をご参照ください。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



上図は、「VIVO Live」音色を選んだ時の例です。

2. ディスプレイ下にあるファンクション・ボタンのいずれかひとつを押します。



ディスプレイに、音色のMIDI情報が一時的に表示されます。



9 音色を追加する(サウンド・ライブラリー)

サウンド・ライブラリー



新しい音色をVIVO S1にインストールできます。

□ DEXIBELL Official Sounds (拡張子: .DXS)

以下のサイトからダウンロードできます。

<https://www.dexibell.com/>

随時新しいデータがアップされますので、こまめにチェックしてみてください。

□ third-party sounds (拡張子: .SF2)

VIVO S1は.SF2の拡張子を持つサウンド・ライブラリーと互換性があります。Webでお探してください。

ユーザー・サウンド・ライブラリーのインポート

ユーザー・エリアにサウンド・ライブラリーをインポートし、VIVO S1の演奏で使用できます。インポートには、USBメモリーとパソコンが必要です。

USBメモリーのサウンド・ライブラリーをインポートする

1. パソコンを使用して、Dexibell Webサイト (.DXS) または他のWebサイト (.SF2) からサウンド・ライブラリーをダウンロードします。
2. USBメモリーのルートに「SOUND」という名前のフォルダを作成します。
3. サウンド・ライブラリー (.DXS または .SF2) をUSBメモリーの「SOUND」フォルダにコピーします。
4. 手順3でサウンド・ライブラリーのデータを入れたUSBメモリーを、VIVO S1のUSB端子に接続します。

インポートする前に、サウンド・ライブラリーを視聴する

5. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[▲][▼] ボタンでSOUND LIBRARYを選びます。



6. [▶] ボタンを押します。

ディスプレイにVIVO S1のインターナル・メモリーの内容が表示されます。



上図はロードされたサウンドライブラリーが無いことを示しています。

NOTE

サウンドライブラリーのサイズがインターナルメモリーの容量を越えると、「Space not available!」というエラーメッセージがディスプレイに表示されます。

7. ファンクション・ボタンでUSBを選びます。

ディスプレイにUSBメモリーの内容が表示されます。



MEMO

USBメモリーの「SOUND」フォルダの内容が表示されます。

8. [▲][▼] ボタンでサウンドライブラリーを選びます。

9. [▶] ボタンを押すか、ファンクション・ボタンでOPENを選びます。

サウンドライブラリーに含まれる音色名が表示されます。



10. [▲][▼] ボタンで、音色を選びます。

選んだ音色で、鍵盤を弾いて演奏できます。

サウンド・ライブラリーをインポートする

11. ファンクション・ボタンでIMPORT ALLを選びます。

サウンドライブラリーがインポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

ユーザー音色を選ぶ

1. [USER] ボタンを押します。



最近選ばれた音色が呼び出されます。

ボタンが点灯し、ディスプレイに音色リストが一時的に表示されます。このとき、下線がついている音が、現在選ばれている音色です。



2. 音色リストが表示されている状態で[▲][▼]ボタンを使って、他のUser音色を選べます。

操作中に自動的に画面が閉じた場合は、もう一度音色ボタンを押してください。

TIPS

メイン画面で[◀][▶]ボタンを押すと、同じカテゴリー内の次または前の音色を選べます。

ユーザー・サウンド・ライブラリーの削除

1. [MENU/EXIT]ボタンを押し、[▲][▼]ボタンでSOUND LIBRARYを選びます。
2. [▶]ボタンを押します。
ディスプレイに、VIVO S1インターナル・メモリー内のサウンド・ライブラリー一覧が表示されます。



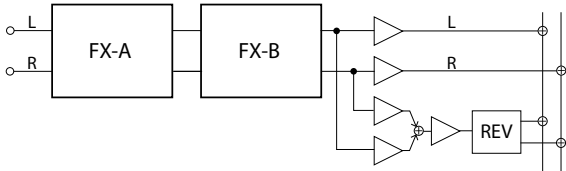
3. [▲][▼]ボタンで削除するサウンド・ライブラリーを選びます。
4. ファンクション・ボタンでDELETEDを選びます。
選んだサウンド・ライブラリーが削除され、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

10 エフェクトをかける

サウンド・エフェクトについて

VIVO S11は、各パート (MAIN、LOWER、COUPLED) ごとに2つのエフェクター (FX-AとFX-B)を搭載しています。

音色を選ぶと、選んだ音に最適なエフェクトを自動的に付加します。



1. ディスプレイにメイン画面が表示されている状態で、ファンクション・ボタンでFX-AまたはFX-Bを選びます。



MEMO

[MENU] ボタンを押してEFFECTSを選んでもこの画面に入ります。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



MEMO

他のパートはメイン画面から、[▲] [▼] ボタンで選びます。

2. [◀] [▶] ボタンでエフェクトのタイプを選びます。
ファンクション・ボタンでON/OFFを選ぶと、エフェクトのオン/オフを切り替えることができます。
エフェクトタイプについての詳細は、「エフェクト・タイプとパラメーター・リスト」(P.50)をご参照ください。
3. [▲] [▼] ボタンで、エディットするパラメーターを選びます。
4. [◀] [▶] ボタンでパラメーターの値を設定します。
エフェクトごとの設定パラメーターの詳細は、「エフェクト・タイプとパラメーター・リスト」(P.50)をご参照ください。

MEMO

2番目のFXプロセッサの設定を変更するには、ファンクション・ボタンを押してFX-Bを選びます。

リバーブをかける

リバーブを使用することで、音に深みと表現力をもたせ、生楽器のようなリアルな響きを表現できます。

リバーブは様々なタイプがあり、パートごとにリバーブのかかり具合を調節できます。

1. ディスプレイにメイン画面が表示されている状態で、一番左のファンクション・ボタンを押してREVERBを選びます。



ディスプレイに次のような画面が表示されます。



MEMO

[MENU] ボタンを押し、EFFECTS、REVERBの順に選んでも、この画面に入ります。

2. [▲] [▼] ボタンで、リバーブ・レベルを変更するパートを選びます。
3. [◀] [▶] ボタンでリバーブ・レベルを調節します。

リバーブ・タイプを変更する

1. ディスプレイにREVERB画面が表示されている状態で、ファンクション・ボタンでTYPEを選びます。



REVERB TYPE画面に入ります。

2. [▲] [▼] ボタンで、Macro Typeを選びます。



設定可能なリバーブタイプは次のとおりです。

設定値

Hall, Dark Hall, Mid Hall, Concert Hall, Large Hall, Chathedral, Arena, Cave, Chamber, Room, Venue, Ambience, Wooden Room, Brick Room, Studio Booth, Small Room, Living Room, Office, Warehouse, Music Club, Plate, Small Spring, Bright Spring, AmpSpring.

11 音色をカスタマイズする (T2L)



T2L-Modelling

T2Lモデリングとは、すべてのDexibellブランドの製品に搭載されている、革新的な技術です。

T2Lモデリングは、楽器が持つ様々な特性をシミュレートするための、多くのアルゴリズムを搭載しています。

ダンパー・オフ (高音のダンパーなし)

アコースティック・ピアノと同様、高域の18鍵分はダンパーがありません。そのため、鍵盤を放したときに音が自然に伸びやかに響きます。

これらの高域18鍵をスタッカートで演奏した場合、音が消えるまでの長さは、ダンパーがある音域の音よりも長くなります。



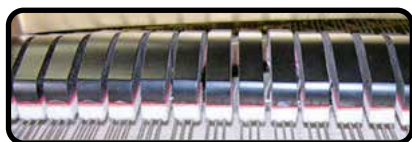
FPシミュレーション (フォルテペダル・マルチアクション・シミュレーション)

ダンパーペダルが持つ、次の特徴をシミュレートしています。

- A) ダンパーペダルを押すと、ダンパーが弦から離れたとき生じるフェルトのダンパー摩擦音がします。このノイズをシミュレートし、付加しています (ダンパー摩擦音)。
- B) ダンパーペダルを押すと、ダンパーが上がることですべての弦が自由になって振動します。それにより共鳴音が発生し、音の響きが豊かになります (弦の共鳴)。ダンパーペダルを使うと、ただ音を伸ばしただけよりも、この弦の共鳴によって艶のある豊かな響きが生まれます。VIVO S1はこの響きをシミュレートしています。
- C) アコースティック・ピアノと同様に、ダンパーペダルを離したときに生じる、ダンパーが降りる機械的ノイズをシミュレートしています (サステインペダル機械ノイズ)。



(A)、(B) ダンパーペダルが押されると、フェルト・ダンパーが上がります。



(C) ダンパーペダルを離すと、フェルト・ダンパーは弦に触れた状態になります。

SP-シミュレーション (ソフトペダル・シミュレーション)

ソフトペダルは、ピアノの音の音量と音色を変化させます。アコースティック・ピアノのソフトペダルの動きをシミュレートしています。



ソフトペダル

T2L パラメーター

VIVO S1では、ピアノ音色を構成する様々な要素のパラメーターを編集することで、ピアノ音色の音質を好みに応じてカスタマイズできます。

以下は、ピアノ音色を特徴付けているいくつかのパラメーターについての詳しい説明です。

Hammer Noise (キー・オン時のインパルス・ノイズ)



ピアノの鍵盤を弾くと、弦にハンマーが当たったときの衝撃音 (ハンマー・ノイズ) が音のアタックに含まれます。このノイズがピアノ本体の共鳴によって響きます。

このパラメーターでは、ハンマー・ノイズの量を調節します。

パラメーター	設定値
Hammer Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Key Off Noise (離鍵時のメカニカル・ノイズ)

鍵盤を離すと、離すスピードに応じた機械的なノイズ (キーオフ・ノイズ) が発生します。

このパラメーターではキーオフ・ノイズの量を調節します。

パラメーター	設定値
Key Off Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Damper Noise (ダンパー・ノイズ)

ダンパーペダルをオン/オフしたときに生じる、ダンパーが弦から離れたときに弦に触れたりする摩擦音(ダンパー・ノイズ)を調節します。



パラメーター	設定値
Damper Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Strings Reso (弦の共鳴音)

アコースティック・ピアノと同様に、いくつかの鍵盤を弾いた状態で他の音をスタカートで演奏すると、弾かれている音のダンパーが解放された状態のため、それらの弦の共鳴音(ストリングス・レゾナンス)が鳴ります。これにより、多くの倍音が加わって、音の響きが豊かになります。



パラメーター	設定値
String Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Damper Reso (ダンパー・レゾナンス)

ダンパーペダルを踏んだときに、すべてのダンパーが上がることにより、解放された弦が振動して生じるノイズです。

パラメーター	設定値
Damper Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Cabinet Reso (Wurly、Ac. Guitar、Harp 用)

キャビネットの共振(キャビネット・レゾナンス)を調節します。

パラメーター	設定値
Cabinet Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Bell (Electric Piano 用)

1970年代に人気を博したエレクトリック・ピアノの、特徴的なベル音の音量を調節します。

パラメーター	設定値
Bell	-64 ~ 0 ~ +63

Click (Vintage Organ 用)

ビンテージ・オルガン音色の特徴である、鍵盤を弾いた時のクリック音を調節します。

クリック音はオルガンの鍵盤が接点に触れたときに生じる電気ノイズです。当初は欠陥と考えられており、このノイズを取り去るために様々な努力がされましたが、成功しませんでした。そのうち、逆にこのノイズが、ロックを初めとした近年のミュージシャンにとって、オルガン・サウンドを特徴づける音となりました。

パラメーター	設定値
Click	-64 ~ 0 ~ +63

Growl (Electric Piano 用)

フェイズ・アタックの典型的な歪みで、うなるような効果をもたらします。このパラメーターで効果を調節します。

パラメーター	設定値
Growl	-64 ~ 0 ~ +63

Off Noise (Clavinet、Harpsy、Church Organ、E. Piano、Fingered Bass 用)

一部の楽器で鍵盤を離れたときに生じる、キーオフ・ノイズの音量を調節します。

パラメーター	設定値
Off Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Percussion (Vintage Organ)

オルガンのアタックに付加する音で、オルガンのキークリック音とは異なります。パーカッションは、オルガンでハーブや木琴、マリンバなどのようなパーカッシブな音を出すために作られました。

このパラメーターでは、パーカッションの音量を調節します。

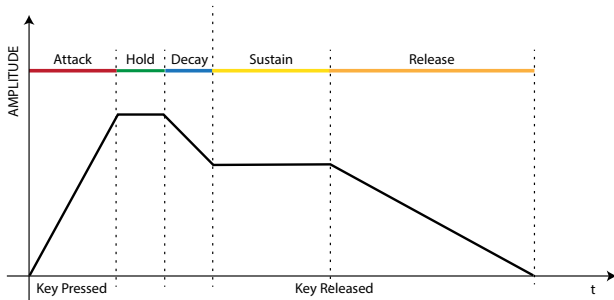
パラメーター	設定値
Percission	-64 ~ 0 ~ +63

Attack、Hold、Decay、Sustain、Release (Brass、Strings、Pad、Choir、Synth 用)

音のエンベロープを調節します。

たとえばオルガンは、鍵盤を押すと一定の音量で音が鳴り、鍵盤を離すとすぐに音が消えます。一方ギターの音は、弦を弾いた直後に音量が最大になり、その後すぐに減衰します。このように、楽器による音の鳴り方をこのパラメーターで調節します。

音色をカスタマイズする (T2L)



パラメーター	設定値
Attack	
Hold	
Decay	-64 ~ 0 ~ +63
Sustain	
Release	

5. [▲] [▼] ボタンで編集するパラメーターを選びます。

6. [◀] [▶] ボタンで設定値を選びます。

MEMO

他のパートの音を編集するには、ファンクション・ボタンでLOWERまたはCOUPLEDを選びます。

変更を保存する

変更した設定をメモリーに保存できます。詳細は「メモリーとメモリーセット」(P.36)をご参照ください。

Ride

Ac. Bass&Ride音色に含まれるライド・シンバルの音量を調節します。

パラメーター	設定値
Ride	-64 ~ 0 ~ +63

音色のカスタマイズ

内蔵音色のパラメーターを好みに合わせて編集し、音をカスタマイズできます。

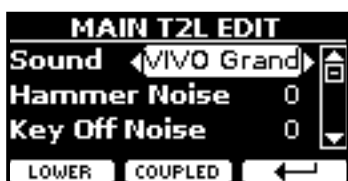
1. カスタマイズする音色を選びます。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[▲] [▼] ボタンでT2L EDITORを選びます。



3. [▶] ボタンを押します。
T2L EDITOR画面に入り、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. 手順1で選んだ、カスタマイズする音色のパートを選びます。
ディスプレイに編集できるパラメーターが表示されます。



上図は編集する音色にVIVO Grand pianoが選ばれている例です。

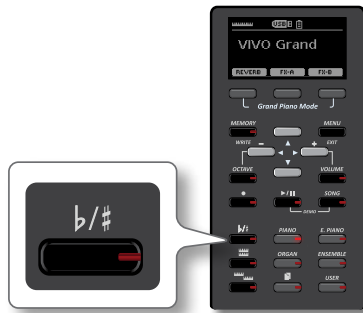
12 その他の機能

トランスポーズ

トランスポーズでは、鍵盤全体の音程を半音単位で上げ下げします。

異なるキーに調整された楽器と演奏したり、普段と違うキーで演奏したり、歌ったりする場合に便利です。

1. [b/#] ボタンを押します。



ディスプレイに次の画面が表示されます。



2. [◀▶] ボタンでトランスポーズする値を設定します。

設定値

-12 ~ 0 ~ +12 (半音単位)

0以外の値を設定するとボタンが点灯し、鍵盤全体の音程がトランスポーズします。

MEMO

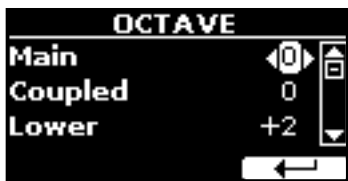
[MENU/EXIT] ボタンを押して、SETTING、TRANSPOSEの順に選んでも、この設定画面に入ります。

オクターブシフト

指定した部分の音程を、オクターブ単位 (12半音ごと) で変更します。

1. [OCTAVE] ボタンを押します。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. [▲▼] ボタンで編集するパートを選びます。
3. [◀▶] ボタンでオクターブシフトの値を設定します。

パートごとの音量を調節する

パートごとに音量を調節できます。

1. VOLUMEボタンを押します。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. [▲▼] ボタンで編集するパートを選びます。
3. [◀▶] ボタンで音量の値を設定します。

キータッチを設定する

鍵盤のタッチ (鍵盤を弾く強さとペロシティー・カーブの関係) を選びます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、SETTING、KEYBOARD TOUCHの順に選びます。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. [◀▶] ボタンでキータッチの種類を選びます。

設定値は以下のとおりです。

設定	設定値	説明
Keyboard Touch	Light++, Light+, Light, Normal, Heavy, Heavy+, Heavy++, Fixed [1~127]	Heavy 鍵盤を弾くわずかな強弱の差でペロシティーを変化させることができます。最大ペロシティーを出すためには最も強く鍵盤を弾く必要があります。
		Normal 標準的なカーブです。Heavyに比べて弱い力で最大ペロシティーを出すことができます。
		Light 鍵盤を弾く力の強弱で、ペロシティーをあまり変化させたくないときはこの設定を選びます。
		Fixed 鍵盤を弾く力に関わらず、常に一定のペロシティーで演奏できます。ペロシティーは、次の「Fixed value」で設定します。
Fixed Value	1~127	Keyboard Touchに「Fixed」が選ばれている時に設定できます。鍵盤を弾いた時のペロシティーの値を設定します。

オーディオ入力レベルを調節する

接続した機器からのオーディオの入力レベルは、「AUDIO INPUT Level」パラメーターで調節します。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、SETTING、AUDIO INPUTの順に選びます。ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. [◀] [▶] ボタンで入力レベルを調節します。

マスター・イコライザー

イコライザーを使用すると、音の周波数帯域ごとに音をブーストしたり、レベルを下げたりできます。マスター EQパラメーターを調整することで、接続した再生システムやヘッドフォン、または外部スピーカーシステムなど、音を出す環境に応じた最適な再生音を実現できます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面にはいります。



2. [▲] [▼] ボタンで編集するパラメータを選び、[◀] [▶] ボタンで値を設定します。

パラメーター	設定値	説明
High Gain	-12~ 0 +12 dB	高周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると高域が持ち上がり、-の値を設定すると高域をカットします。
Mid Freq	200 ~ 8000 Hz	中域のカットオフ周波数を設定します。
Mid Gain	-12~ 0 +12 dB	中周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると中域が持ち上がり、-の値を設定すると中域をカットします。
Low Gain	-12~ 0 +12 dB	低周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると低域が持ち上がり、-の値を設定すると低域をカットします。

プリセットのマスター EQを選ぶ

VIVO S1 にはあらかじめいくつかのEQパターンが内蔵されています。この中から好みのプリセットを選び、その設定を元カスタマイズしてユーザーエリアに保存することができます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面にはいります。



2. ファンクション・ボタンでPRESETを選びます。
3. [▲] [▼] ボタンで好みのプリセットを選びます。



4. ファンクション・ボタンでSELECTを選びます。プリセットの設定がロードされ、EQアイコンの表示が白黒反転します。

ユーザー・プリセットに保存する

パラメーターを編集したマスター EQに名前をつけて保存できます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面にはいります。



2. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。



3. 保存するプリセットに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
4. ファンクション・ボタンでWRITEを選びます。プリセットが保存され、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)

VIVO S1の設定を工場出荷時の状態に戻します。

WARNING

この操作を行うと、VIVO S1をお買い上げ後に変更した設定や、録音したデータはすべて失われます。この操作の前に、USBメモリーにバックアップを取ることをお勧めします。詳細は「データをUSBメモリーにバックアップする」(P.32)をご参照ください。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、FACTORY RESETを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
VIVO S1が初期設定に戻り、ディスプレイにCompleteと表示されます。

データのバックアップ

コンテンツ、音色リスト、各種設定をUSBメモリーにバックアップしたり、バックアップしたデータをVIVO S1に戻すことができます。

VIVO S1を修理に出す際は、事前にこの方法でバックアップを取ることをお勧めします。

データをUSBメモリーにバックアップする

1. バックアップ・データを保存するUSBメモリーを接続します。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. EXPORT BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. バックアップデータに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
5. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
すべてのデータがUSBメモリーに保存されます。

バックアップされるのは次のデータです。

バックアップ・データ
Global Parameters
Master Eq User Parameters
Memory Parameters
Memory Set Parameters
MIDI Set User Parameters
Temperament User Scale Parameters
Sound Library List

バックアップ・データに戻す

1. バックアップ・データの入ったUSBメモリーを接続します。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. IMPORT BACKUPを選びます。
USBメモリー内にあるバックアップ・データがディスプレイに表示されます。



4. [▲][▼] ボタンでVIVO S1に戻すバックアップ・データを選びます。
5. ファンクション・ボタンでIMPORTを選びます。
ディスプレイに次の画面が表示されます。



6. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
バックアップ・データの内容がVIVO S1に反映されます。

13 ソング・プレイヤー

VIVO S1のUSB Memory端子に接続したUSBメモリーから、mp3やWAV形式のオーディオ・ファイルを直接再生できます。USBメモリー内の音楽データに合わせて演奏できます。

VIVO S1は以下の音楽データが再生可能です。

ファイルタイプ	拡張子
オーディオ・ファイル	.mp3
	.wav
	.aiffまたは.aif

曲の再生

曲をロードする

1. [SONG] ボタンを押します。
ボタンが点灯します。



ディスプレイにソング画面が表示され、すでに曲がロードされている場合は、曲の名前が表示されます。



2. ファンクション・ボタンでSONG LISTを選びます。
インターナル・メモリー内の曲リストが表示されます。



インターナル・メモリーの曲をロードする

1. [▲][▼] ボタンで画面をスクロールし、ロードする曲を選びます。
2. ファンクション・ボタンでSELECTを選び、曲をロードします。

USBメモリーからロードする

1. ロードする曲データが入ったUSBメモリーを接続します。
「USBメモリーを接続する」(P.16)をご参照ください。

2. ファンクション・ボタンでUSBを選びます。
ディスプレイにUSBメモリーの内容一覧が表示されます。



3. [▲][▼] ボタンでファイルやフォルダを選びます。
ロードする曲がフォルダ内にある場合は、はじめに[▲][▼] ボタンでフォルダを選び、ファンクション・ボタンでOPENを選んでフォルダの中に入ります。
今いるフォルダから抜けるには、ファンクション・ボタンで ← を選ぶと、一つ上の階層に戻ります。
4. ファンクション・ボタンでSELECTを選びます。
5. 選んだ曲がロードされ、曲のアイコンが白黒反転します。

ロードした曲を再生する

1. [▶/||] ボタンを押します。



[▶/||] ボタンが点灯し、曲の再生が始まります。

2. [▶/||] ボタンをもう一度押しすと、曲の再生が止まります。
[▶/||] ボタンが消灯します。
3. 曲の先頭に戻るには、ファンクション・ボタンで◀を選びます。



4. もう一度 [▶/||] ボタンを押すと、曲を再生します。

曲のコントロール

VIVO S1には便利なソングコントロール機能があり、選んでいる曲のボリューム調節、巻き戻し、早送りなどができます。

1. 曲データをロードします。

詳細は「曲を選んで再生する」(P.13)をご参照ください。



2. ソングのメイン画面から、ファンクション・ボタンでCONTROLを選びます。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. [▲][▼] ボタンでコントロールするパラメーターを選びます。

4. [◀][▶] ボタンで設定値を選びます。

パラメーター	値	説明
Volume	0～127	ソングプレイヤーの音量を調整します。
Time	0～曲の長さ	[◀] ボタンを押すと曲を巻き戻しします。 [▶] ボタンを押すと曲を早送りします。
Loop Mode	OFF, SONG, LIST	OFF 現在再生している曲の最後で、再生を停止します。 SONG 現在選んでいる曲の再生を継続的に繰り返します。別の曲を選ぶか、曲の再生を停止するまで、再生が繰り返されます。 LIST フォルダ内のすべてのオーディオファイルを順番に再生します。別の曲を選択するか、曲の再生を停止するまで、再生が繰り返されます。

14 演奏を録音する

VIVO S1での演奏をオーディオ・データとして録音し、USBメモリーに保存できます。録音したデータはPCやスマートフォン、オーディオ・プレイヤーでお楽しみいただけます。

オーディオ・データとして録音する(WAVE)

VIVO S1のAUDIO IN端子と外部機器を接続し、外部機器から入力されるすべてのデータを録音できます。たとえば、AUDIO IN端子に接続した外部プレーヤーでバックアップ用オーディオトラックを再生しながら、VIVO S1で演奏したデータを録音できます。

NOTE

オーディオ・データを録音するためには、USBメモリー端子にUSBドライブ(別売)を接続する必要があります。詳細は「USBメモリーを接続する」(P.16)をご参照ください。

オーディオ・データのフォーマットは以下のとおりです。

オーディオ・フォーマット	仕様
WAV	48 kHz、32 bit、ステレオ

演奏を始める前に

1. 録音を保存するUSBメモリーをUSB Memory端子に接続します。
詳細は「USBメモリーを接続する」(P.16)をご参照ください。
2. 音色やキーボード・モードなど、演奏に必要な設定をします。

録音のスタートとストップ

3. [●] ボタンを押します。
[●] ボタンが点灯し、録音が始まります。VIVO S1 を演奏して演奏データを録音します。
4. 演奏が終わったら [●] ボタンを押します。
録音が終了し、[●] ボタンが消灯します。
演奏データは、USBメモリー内のRecordingフォルダに自動的に保存されます。

NOTE

録音中はUSBメモリーを取り外さないでください。

録音データについて

録音したオーディオ・データは、USBメモリー内のRecordingフォルダに保存されます。USBメモリー内にRecordingフォルダがない場合は、最初の録音時に自動で作成します。



オーディオ・ファイルの名前には、rec_0001.wav, rec_0002.wav などの連番が自動でつき、毎回異なる名前で保存されます。

録音を聴く

5. [▶/||] ボタンを押して、録音したデータを再生します。
もう一度録音をやり直すには、手順3から始めます。

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.16)をご参照ください。

多重録音する(オーバーダブ)

既にある曲データを再生しながら演奏し、再生データと演奏データをあわせてひとつのデータに録音する方法です。

1. 録音データを保存するUSBメモリーを接続します。
2. 録音のための演奏準備をします。
必要に応じて、音色やキーボード・モードを設定します。
3. オーディオ・ファイルをロードします。
詳細は「曲を選んで再生する」(P.13)をご参照ください。
4. [●] ボタンを押して、録音を始めます。
5. [▶/||] ボタンを押して、オーバーダブする曲データを再生します。
曲に合わせて演奏します。
6. 演奏が終わったら [●] ボタンを押します。
録音が終了し、[●] ボタンが消灯します。
7. [▶/||] を押すと、今の録音データが再生されます。

15 メモリーとメモリーセット

VIVO S1には80個のメモリーがあり、VIVO S1で編集したほぼすべての設定値をメモリーに保存できます。

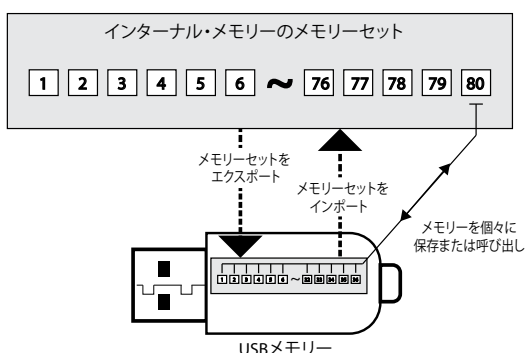
あらかじめ保存したメモリーを呼び出すことで、演奏中にメニュー画面から機能を呼び出したり、設定を変更したりすることなく、すぐに好みの設定を呼び出すことができます。

また、80個のメモリーをまとめてメモリーセットとして保存できます。メモリーセットは、USBメモリーからインポートすることもできます。

メモリーとメモリー構造

作成したメモリーセットは、インターナル・メモリーまたはUSBメモリーに保存できます。

これにより、用途に応じた設定を複数用意することができます。



インターナル・メモリーに設定を保存する

1. 保存する設定をおこないます。
詳細は「ファンクション・メニュー」(P.42) をご参照ください。
2. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで、[MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けます。



[MEMORY/WRITE] ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。

MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、WRITEの順に選ぶことで同じ画面に入ります。

3. [▲][▼] ボタンで置き換えるメモリーを選びます。
4. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



5. メモリーに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20) をご参照ください。

6. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
設定がインターナル・メモリーに保存され、ディスプレイにインターナル・メモリーの一覧が表示されます。



インターナル・メモリーから設定を呼び出す

1. [MEMORY/WRITE] ボタンを押します。
[MEMORY/WRITE] ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、RECALLの順に選ぶことで、同じ画面に入ります。

2. [▲][▼] ボタンで呼び出すメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
選んだメモリーセットが呼び出され、ディスプレイが次のような表示に変わります。



USBメモリーに設定を保存する

1. USBメモリーを接続します。
2. VIVO S1を設定します。
3. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで、[MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けます。



インターナル・メモリーの内容が表示されます。

MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、WRITEの順で選んでも同じ画面に入ります。

- ファンクション・ボタンでUSBを選びます。
ディスプレイにUSBメモリーの中のフォルダとファイルが表示されます。



- 以下の方法で保存できます。
- 「すでにあるメモリーセットに上書きする」(P.37)
 - 「新規メモリーセットに保存する」(P.37)

すでにあるメモリーセットに上書きする

- [▲] [▼] ボタンでUSBメモリー内にあるメモリーセット・ファイルを選びます。

アイコン	メモリーセット・ファイルの拡張子
	.rif

ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶと、ひとつ上の階層に戻ります。

- ファンクション・ボタンでOPENを選び、メモリーセット・ファイルを呼び出します。

ディスプレイにメモリーセットの内容が表示されます。



- [▲] [▼] ボタンで置き換えるメモリーを選びます。
- ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



- 必要に応じてメモリーの名前を変更します。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
- ファンクション・ボタンでOKを選びます。
メモリーが上書き保存され、ディスプレイに次のような画面が表示されま
す。



新規メモリーセットに保存する

- ファンクション・ボタンでNEW SETを選び、空のファイルを作ります。
メモリーセットの仮の名前が表示されます。



- メモリーセット・ファイルに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
- ファンクション・ボタンでOKを選び、名前を確定します。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



- [▲] [▼] ボタンで、メモリーを保存する番号を選びます。
- ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



仮の名前が表示されます。

- メモリーに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
- ファンクション・ボタンでOKを選びます。
メモリーが保存され、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



USBメモリーから設定を呼び出す

1. メモリーセット・ファイルが入ったUSBメモリーをVIVO S1に接続します。
詳細は「USBメモリーを接続する」(P.16)をご参照ください。
メイン画面にUSBのアイコンが表示されます。
2. [MEMORY/WRITE] ボタンを押します。
ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押して、MEMORY、RECALLの順に選んでも同様の画面に入ります。

3. ファンクション・ボタンでUSBを選びます。
ディスプレイに、USBメモリー内のフォルダやファイルが表示されます。



4. [▲][▼] ボタンを使って設定ファイルを選びます。

アイコン	メモリーセット・ファイルの拡張子
	.rif

ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、フォルダを開きます。← を選ぶと、ひとつ上の階層に戻ります。

5. ファンクション・ボタンでOPENを選び、メモリーセット・ファイルを開きます。
ディスプレイにメモリーセット・ファイルの内容が表示されます。



6. [▲][▼] ボタンで、呼び出すメモリーを選びます。
7. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
メモリーが呼び出され、ディスプレイに表示されます。



MEMO

ファンクション・ボタンでINTERNALを選ぶと、インターナル・メモリーの内容を表示します。

メモリーの名前を書き換える

メモリーの名前を書き換えます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、RENAMEの順に選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. [▲][▼] で、名前を書き換えるメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでRENAMEを選びます。
ディスプレイの表示が次のようになります。



4. [▲][▼] ボタンと[◀][▶] ボタンで名前をつけます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20)をご参照ください。
5. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
メモリーの名前が書き換わり、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



USBメモリーにメモリーセットを エクスポートする

各イベント用にメモリーセットを作成し、必要な時にインポートするのに便利です。

この機能を使用して、内部メモリーをバックアップすることもできます。

1. USBメモリーを VIVO S1 に接続します。
USBアイコンがメイン画面に表示されます。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、EXPORT SETの順に選びます。



ディスプレイにUSBメモリー内のフォルダやファイル名が表示されます。



3. [▲][▼] ボタンでフォルダを選びます。
ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶとひとつ上の階層に戻ります。
4. ファンクション・ボタンでEXPORTを選びます。
ディスプレイの表示が次のように変わります。



仮の名前が表示されます。

5. 名前を変更します。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.20) をご参照ください。
6. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
データがエクスポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.16) をご参照ください。

USBメモリーからメモリーセットを インポートする

USBメモリーにあるメモリーセットを、VIVO S1にインポートします。

1. メモリーセットが入ったUSBメモリーを接続します。
ディスプレイに、USBアイコンが表示されます。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY→IMPORT SETの順に選びます。
ディスプレイにUSBメモリーの内容が表示されます。



3. [▲][▼] ボタンで、インポートするメモリーセット・ファイルを選びます。



ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶとひとつ上の階層に戻ります。

4. ファンクション・ボタンでIMPORTを選びます。
メモリーセット・ファイルがインポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.16) をご参照ください。

16 USB MIDI キーボード・コントローラー

VIVO S1はUSBバスを介してパソコンに直接接続できます。これにより、シーケンサ・ソフトウェアをはじめ、様々なソフトウェアやアプリケーション・ソフトとあわせて使うことができます。

VIVO S1をパソコンと接続するには、「パソコンと接続する」(P.16)をご参照ください。



MIDI接続のできること

MIDI端子を搭載したキーボードなどのデバイスを接続して、MIDIメッセージの送受信ができます。

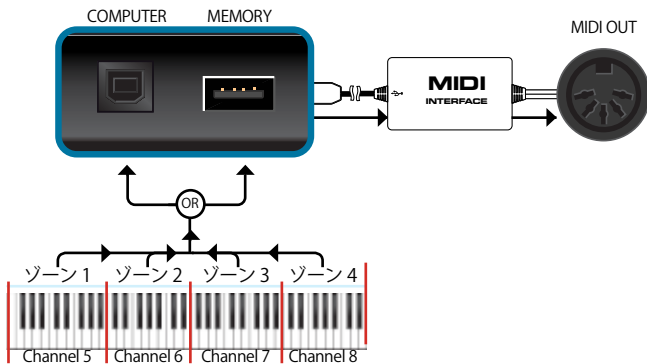
この接続には、VIVO S1のUSB Memory端子にUSB MIDIインターフェース (別売) を接続します。詳細は「USB MIDIインターフェースと接続する」(P.17)をご参照ください。

MIDIゾーンを有効にする

VIVO S1では鍵盤を最大4つの設定可能なMIDIゾーンに分割できます。各ゾーンごとにMIDIチャンネル、鍵盤領域を設定し、オクターブ、トランスポーズ、その他多くのパラメーターを調節できます。

MEMO

- ゾーンの設定はメモリーセットに保存できます。「メモリーとメモリーセット」(P.36)をご参照ください。
- ゾーンを使ったMIDI設定を簡単にするために、「KeyboardZone」と呼ばれる特別なMIDIセットがあります。詳細は「MIDI SET」(P.49)をご参照ください。



MIDIゾーンを構成する

- [MENU] ボタンを押し、MEMORY、SETTINGの順に選びます。



- [▲][▼] ボタンで設定するゾーンを選び、[▶] ボタンを押します。



図はゾーン1を選んだ例です。

- [▲][▼] ボタンでパラメーターを選びます。

- [◀][▶] ボタンで値を設定します。

各パラメーターの説明は次のとおりです。

パラメーター	設定値	説明
Switch	OFF, ON	ゾーンの有効 (ON) /無効 (OFF)
Channel	1~16	MIDI送信チャンネル
Octave	-4 ~ 0 ~ +4	オクターブシフトの値
Transpose	-12 ~ 0 ~ +12	トランスポーズの値
Note Low	C-1 ~ G-9	鍵盤領域の設定
Note High	C-1 ~ G-9	MEMO 以下の手順で簡単に設定できます。 Note Low または Note Highを選び、鍵盤で設定する音を弾きます。
CC00	0 ~ 127	外部デバイスの音色を選びます。
CC32	0 ~ 127	(cc00, cc32, PC) の形式で音色を選びます。
PC	1 ~ 128	
Level	0 ~ 127	外部機器に送信する音量レベル
Panpot	-64 ~ 0 ~ 63	外部機器に送信するパンポット値
PC Send	OFF, ON	OFF : MIDI OUTからプログラム・チェンジを送信しません。 ON : MIDI OUTからプログラム・チェンジ (cc00, cc32, PC) を送信します。
Bender	OFF, ON	OFF : MIDI OUTからベンダー・ホイールの情報を送信しません。 ON : ベンダー情報はゾーンと連動し、ベンダー・ホイールを動かしたときの変化量をMIDI OUTから送信します。
Modulation	OFF, ON	OFF : MIDI OUTからモジュレーション・ホイールの情報を送信しません。 ON : モジュレーション情報はゾーンと連動し、モジュレーション・ホイールを動かしたときの変化量をMIDI OUTから送信します。
Foot SW	OFF, ON	OFF : 各ペダル情報をMIDI OUTから送信しません。
Damper	OFF, ON	ON : ペダル情報はゾーンと連動し、ペダルを操作したときの情報をMIDI OUTから送信します。
Expression	OFF, ON	

17 オーディオデータと合わせて演奏する

X-MUREアプリケーションを使うと、アプリでオーディオ・パターンをコントロールしながら、オーディオデータに合わせて VIVO S1 を演奏できます。



X MURE® は Dexibell® のアプリケーション・ソフトウェア製品です。

X MUREとは

- X-MUREはiOSデバイスで動作するアプリケーション・ソフトです。
- オーディオ・トラックをリアルタイムで編集できる世界初のアルゴリズムHarmony Poly Fragmentorを搭載するX MUREを使って、iOSデバイスの画面を操作し、USB接続した楽器で音楽を再生できます。
- X MUREは音源を必要としない、仮想楽器もしくは本物の楽器の音に基づいたスタンダードMIDIファイルです。

X MUREでできること

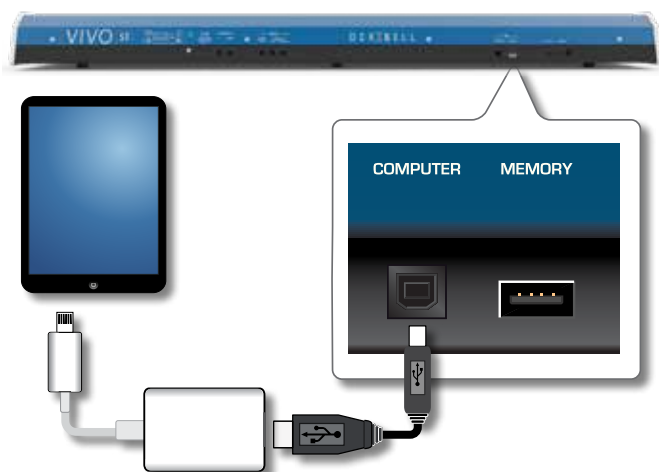
- VIVO S1のライブ演奏で、X MUREオーディオ・パターンをコントロールします。
- 様々な音楽ジャンルに曲をアレンジしたり、新しく曲を作ることができます。

X MUREを使うために必要なもの

- VIVO S1 Digital Piano
- Lightning - USBカメラアダプター (コネクタはApple Inc.社製のものを使用)
- USBケーブル (タイプAオス-タイプBオス)
- オーディオケーブル (3.5 mm プラグ)
- X MUREアプリ (App Storeよりダウンロードしてください)

モバイル機器と接続する

1. USBケーブルとLightning - USBカメラアダプターを使って、iOSデバイスと VIVO S1 を接続します。



2. [VOLUME] ノブを左に回して、音量を最小にします。
3. VIVO S1のINPUT端子を、モバイル機器の出力に接続します

X MUREアプリを使って演奏する

1. VIVO S1 とiOSデバイスの電源をオンにします。
2. iOSデバイスでX MUREのアイコンをタッチし、アプリを起動します。いくつかのボタンが表示されます。



3. 「Dexibell VIVO」アイコンをタッチします。アプリで次のような画面が表示されます。



4. 鍵盤を弾いて、X MUREをコントロールするパートを決定します。
5. X MUREで再生するオーディオ・パターンを選びます。
6. X MUREアプリでPlayアイコンをタッチします。選んだオーディオ・パターンが再生されます。

MEMO

オーディオのスタート/ストップに、ペダルを使うこともできます。詳細は「CONTROL」(P.44) をご参照ください。

7. 鍵盤でコードを弾きます。弾いたコードに応じてオーディオ・パターンが再生されます。
8. X MUREのA、B、C、Dアイコンをタッチすると、別のパターンを選べます。

MEMO

別のオーディオ・パターンを、ペダルを使って選ぶこともできます。詳細は「CONTROL」(P.44) をご参照ください。

9. X MUREの1、2、3、4アイコンをタッチすると、別のドラム・パターンを選べます。

MEMO

別のドラム・パターンを、ペダルを使って選ぶこともできます。詳細は「CONTROL」(P.44) をご参照ください。

18 ファンクション・メニュー

VIVO S1の [MENU/EXIT] ボタンからは、様々な機能やパラメーターにアクセスできます。

基本操作

1. [MENU/EXIT] ボタンを押します。

ディスプレイの表示が次のように変わります。



2. [▲] [▼] ボタンで編集するファンクション・グループを選びます。

3. [▶] ボタンを押して、手順2で選んだグループに入ります。

パラメーターの選び方については「カーソルの操作とパラメーター値の設定」(P.20) もご参照ください。

次の機能やパラメーターを編集できます。

ファンクション・グループ

SETTING	43
MAIN SETTING	43
Level	43
Panpot	43
Octave	43
Mute	43
LOWER SETTING	43
COUPLED SETTING	43
Level	43
Panpot	43
Octave	43
Coarse Tune	43
Fine Tune	43
Note Low	43
Note High	43
ZONE 1 SETTING	43
ZONE 2 SETTING	43
ZONE 3 SETTING	43
ZONE 4 SETTING	43
KEYBOARD TOUCH	43
TRANSPOSE	43
SPLIT MODE	43
Split Point	43
T2L EDITOR	43
EFFECT	43
MAIN FX	44
LOWER FX	44
COUPLED FX	44
REVERB	44
MASTER EQ	44
CONTROL	44
DAMPER PEDAL	44
Part	44
Virtual Damper	44
PEDAL ASSIGN 1	44
Funct	44
Part	45
PEDAL ASSIGN 2	45
Funct	45
Part	45
EXPRESSION PEDAL	45
Funct	45
Part	45

TUNING	45
MASTER TUNE	45
TEMPERAMENT	45
Equal Flat	46
Equal Stretch (初期値)	46
VIVO Stretch	46
Vallotti	46
Just Major	46
Pythagorean	46
Mean-Tone	46
Werckmeister III	46
Kimberger III	46
User 1, User 2, User 3	46
MEMORY	47
USB REMOVE	47
AUDIO INPUT	47
LEVEL	47
MIDI	47
RECEPTION	47
MAIN, COUPLED, LOWER	47
Status	47
Channel	48
Shift	48
Modulation	48
Volume	48
Panpot	48
Expression	48
Reverb	48
Chorus	48
Hold	48
Sostenuto	48
Soft	48
PG (Program Change)	48
PB (Pitch Bender)	48
Memory	48
Status	48
Channel	48
TRANSMISSION	48
MAIN, COUPLED, LOWER	48
Status	48
Channel	48
Shift	48
Local	48
Modulation	48
Volume	48
Panpot	48
Expression	48
Reverb	48
Chorus	48
Hold	48
Sostenuto	48
Soft	48
PG (Program Change)	48
PB (Pitch Bender)	48
Memory	48
Status	48
Channel	48
Common	49
Active Sensing (FEH)	49
MIDI SET	49
SAVE MIDI SET	49
GLOBAL	49
Auto OFF	49
Pedal	49
SOUND LIBRARY	49
FACTORY RESET	49
BACKUP	49
VERSION INFO	49

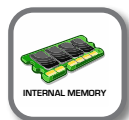
パラメーター・メモリー領域

VIVO S1で設定したパラメーターは、2種類のメモリー領域に保存されます。パラメーターが保存される領域は、次のアイコンによって区別できます。

アイコン	説明
	<p>インターナル・メモリー（内部メモリー）を表します。</p> <p>パラメーターやパラメーター・グループはVIVO S1の内部メモリーに保存されます。詳細は「インターナル・メモリーに設定を保存する」(P.36)をご参照ください。</p>
	<p>グローバル・メモリーを表します。パラメーターやパラメーター・グループはVIVO S1のグローバル・メモリーに保存されます。グローバル・メモリーの内容は、VIVO S1の電源をオフにするときに、自動で保存されます。</p> <p>NOTE</p> <p>VIVO S1は正しい方法で電源をオフにしてください。VIVO S1の電源がオフになる前に、電源アダプターをコンセントから外さないでください。</p>

SETTING

[MENU/EXIT] ボタン→SETTING



VIVO S1の設定に関するパラメーター・グループです。



▶ MAIN SETTING

MAIN/パートに関するパラメーターを編集できます。

パラメーター	設定値	説明
Level	0 ~ 127	鍵盤で弾くMAIN/パートの音量を調節します。 0に設定すると、音は鳴りません。
Panpot	-64 ~ 0 ~ +63	音のステレオ定位を設定します。 0に設定すると音は中央に位置し、+の値は右に、-の値は左に音が定位します。
Octave	-4 ~ 0 ~ +4	MAIN/パートの音程を、オクターブ単位で上げ下げします。
Mute	OFF, ON	ONに設定するとパートがミュートされ、鍵盤を弾いても音が鳴りません。

▶ LOWER SETTING

LOWER/パートに関するパラメーターの設定です。設定内容はMAIN/パートと同じです。

▶ COUPLED SETTING

COUPLED/パートに関するパラメーターを編集できます。

パラメーター	設定値	説明
Level	0 ~ 127	MAIN/パートと同様です。
Panpot	-64 ~ 0 ~ +63	
Octave	-4 ~ 0 ~ +4	
Coarse Tune	-24 ~ 0 ~ +24	音の高さを半音単位で調節します。
Fine Tune	-99 ~ 0 ~ +99	音の高さを1セント (1/100半音) 単位で調節します。
Note Low	A1 ~ Eb7	COUPLED/パートの鍵盤領域 (キーボード・レンジ) を設定します。
Note High	Bb1 ~ E7	

▶ ZONE 1 SETTING

▶ ZONE 2 SETTING

▶ ZONE 3 SETTING

▶ ZONE 4 SETTING

「USB MIDI キーボード・コントローラー」(P.40)をご参照ください。

▶ KEYBOARD TOUCH

「キータッチを設定する」(P.30)をご参照ください。

▶ TRANSPOSE

VIVO S1の音程を、半音単位で上げ下げします。モードの設定に応じて、楽器全体または特定のセクションのみ音程を上げ下げできます。詳細は「トランスポーズ」(P.30)をご参照ください。

▶ SPLIT MODE

スプリッド・モードのオン/オフを設定します。鍵盤を分割します。

MEMO

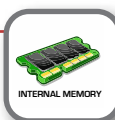
ディスプレイに次のような画面が表示されるまで [] ボタンを押し続けても、このページに入ります。



パラメーター	設定値	説明
Split Point	F1 ~ C#7	「スプリットポイントを変更する」(P.23)をご参照ください。

T2L EDITOR

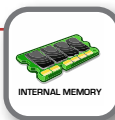
[MENU/EXIT] ボタン→T2L EDITOR



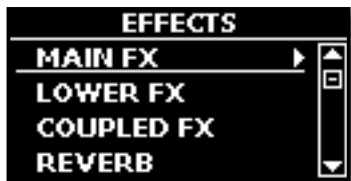
「音色をカスタマイズする (T2L)」(P.27)をご参照ください。

EFFECT

[MENU/EXIT] ボタン→EFFECT

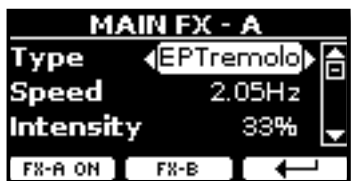


VIVO S1には2つのマルチエフェクト (FX-AおよびFX-B) プロセッサーがあり、各パートに使用できます。



▶ MAIN FX

MAINパートのエフェクト・パラメーターを設定します。



エフェクト・パラメーターの詳細は「エフェクト・タイプとパラメーター・リスト」(P.50)をご参照ください。

FXの選び方と関連パラメーターの詳細は「サウンド・エフェクトについて」(P.26)をご参照ください。

▶ LOWER FX

LOWERパートのエフェクト・パラメーターを設定します。詳細は、上記MAINパートをご参照ください。

▶ COUPLED FX

COUPLEDパートのエフェクト・パラメーターを設定します。詳細は、上記MAINパートをご参照ください。

▶ REVERB

詳細は「リバーブをかける」(P.26)をご参照ください。

▶ MASTER EQ

詳細は「マスター・イコライザー」(P.31)をご参照ください。

CONTROL

[MENU/EXIT] ボタン → CONTROL



スイッチ、ペダル、スライダーなどの、コントローラにアサインする機能を設定します。

次図は、コントローラーに機能を設定する画面です。



▶ DAMPER PEDAL



パラメーター	設定値	説明
Part	Off, Main, Coupled, Lower, Main+Lw, Main+Cp, Main+Lw+Cp, Lower+Cp	<p>OFF: ダンパーペダルを使わないパートに設定します。</p> <p>MAIN, COUPLED, LOWER, MAIN+LW, MAIN+CP, MAIN+LW+CP, LOWER+CP: ダンパーペダルは設定したパートに割り当てら、そのパートの音に効果がかけられます。</p>
Virtual Damper	Off, On	<p>OFF: 「Virtual Damper」機能をオフにします。</p> <p>ON: Virtual Damper機能がオンです。</p> <p>この機能をオンにすると、ダンパーペダルを使わずとも音を持続させることができます。</p> <p>この機能がオンのとき、レガート（弾いているキーを放す前に次の音を弾く）で演奏するとサステインが自動的にかかり、ダンパーペダルを踏んだときと同じような効果がかけられます。</p> <p>スタッカートで演奏すると、サステインはかかりません。</p> <p>MEMO 現在選んでいるパートに効果がかけられます。</p> <p>NOTE この設定は、メモリーおよびグローバル・メモリーには保存されません。</p>

▶ PEDAL ASSIGN 1



パラメーター	設定値	説明
Funct.	OFF, Sostenuto, Soft, FXA On-Off, FXB On-Off, Memory Prev., Memory Next, Rotary S/L, Part On/Off, XMure FillUp, XMure FillDw, XMure SceneUp, XMure SceneDw, XMure Play/Stop, XMure Ending	<p>OFF: 機能を割り当てません。</p> <p>「ペダル機能の説明」(P.45)をご参照ください。</p>
	Default: Rotary S/L	

パラメーター	設定値	説明
Part	Off, Main, Coupled, Lower, Main+Lw, Main+Cp, Main+Lw+Cp, Lower+Cp	<p>OFF : ペダルを踏んでも効果はかかりません。</p> <p>MAIN, COUPLED, LOWER, MAIN+LW, MAIN+CP, MAIN+LW+CP, LOWER+CP</p> <p>ペダルを踏んで効果をかけたいパートを設定します。</p>

▶ PEDAL ASSIGN 2



パラメーター	設定値	説明
Funct.	Off, Sostenuto, Soft, FXA On-Off, FXB On-Off, Memory Prev., Memory Next, Rotary S/L, Part On/Off, XMure FillUp, XMure FillDw, XMure SceneUp, XMure SceneDw, XMure Play/Stop, XMure Ending	<p>OFF: 機能を割り当てません。</p> <p>「ペダル機能の説明」(P.45)をご参照ください。</p>
Part	Default: Soft ASSIGN 1 pedalと同様です。	

▶ EXPRESSION PEDAL



パラメーター	設定値	説明
Funct.	Expression, Modulation	<p>Expression : エクスプレッションを割り当てます。</p> <p>Modulation : モジュレーションを割り当てます。</p>
Part	Off, Main, Coupled, Lower, Main+Lw, Main+Cp, Main+Lw+Cp, Lower+Cp	<p>OFF : エクスプレッションペダルを踏んでも効果はかかりません。</p> <p>MAIN, COUPLED, LOWER, MAIN+LW, MAIN+CP, MAIN+LW+CP, LOWER+CP :</p> <p>設定したパートにエクスプレッションの効果がかかります。</p>

ペダル機能の説明

機能	説明
Sostenuto	ソステヌートを割り当てます。
Soft	ソフトペダルを割り当てます。ソフトペダルを踏んでいる間に演奏した音の音量が下がり、音色がわずかに変化します。
FXA On-Off FXB On-Off	MFXA/Bのオン/オフを切り替えます。
Memory Prev. Memory Next	ひとつ前、またはひとつ先のメモリーに切り替えます。
Rotary S/L	ロータリースピードのSlow/Fastを切り替えます。
Part On/Off	キーボード・パートのオン/オフを切り替えます。
XMure FillUp XMure FillDw	XMure® アプリのドラムパターンを、ひとつ前 (FillDw) またはひとつ先 (FillUp) のパターンに切り替えます。
XMure SceneUp XMure SceneDw	XMure® アプリのシーンを、ひとつ前 (SceneDw) またはひとつ先 (SceneUp) のシーンに切り替えます。
XMure Play/Stop	XMure® アプリのパターン再生/停止を切り替えます。
XMure Ending	エンディング・パターンを選びます。

TUNING

[MENU/EXIT] ボタン → TUNING



▶ MASTER TUNE



設定値	説明
415.40 Hz~ 440.00 Hz~ 466.10 Hz	A4音の周波数を設定します。
440.00 Hz	440.00 Hzと442.00 Hzは ファンクション・ボタンで選ぶことができます。
442.00 Hz	

楽器は一般的にA 440にチューニングされます。

1700年代後半から1800年代前半の標準ピッチにはA 415が使われていましたが、その後、標準ピッチは徐々に高くなり、1800年代後半にはA 435が使われるようになりました。そのような経緯を経て、1900年代初期にA 440が標準規格として採用されました。現在もA 440が標準ですが、一部のオーケストラ、特にヨーロッパでは、A 444などのより高いピッチを標準として使用しています。

▶ TEMPERAMENT



現代の楽器は、隣り合う音同士がすべて同じ音程差でチューニングされています (Equal Flat) が、音楽ジャンルによっては異なる音律が使われることがあります。

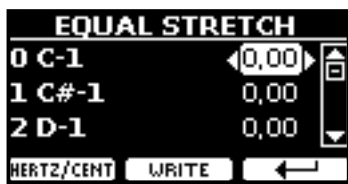
設定値	説明
Equal Flat	オクターブを、12の等しい間隔に分けています。
Equal Stretch (初期値)	Equal Flatを元にしていますが、オクターブを伸ばすことによって、平均律で生じる完全5度の不協和音を回避しています。
VIVO Stretch	Equal Stretchに近いですが、よりピアノ用に調整された音階です。
Vallotti	今日のバロック音楽で使われる音階です。
Just Major	純正律です。# や ♭ を使わず、転調や移調しない曲に適しています。
Pythagorean	古代ギリシャで発明された音律です。3度はやや不完全和音ですが、メロディは平均律よりきれいな響きます。
Mean-Tone	3度の純正を保つために、完全5度を純正律より狭めています。
Werckmeister III	上記のMean-Tone (中全音律) とピタゴラスを組み合わせた音律で、移調しても演奏できます。
Kimberger III	純正律と中全音律を改善したもので、移調ができ、すべての調で演奏できます。
User 1, User 2, User 3	ユーザーによって作られた音律を保存します。

1. 音律を選びます。
2. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
選んだ音律が反映されます。

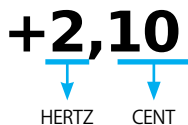
Equal Flat、Equal Stretch、Vivo Stretchの編集

Equal Flat、Equal Stretch、Vivo Stretchを選んだ場合は、音律を細かく設定できます。

1. ファンクション・ボタンでEDITを選びます。



2. [▲][▼] ボタンまたは鍵盤を弾いて、編集する音を選びます。
3. [◀][▶] ボタンで音程を設定します。
4. ファンクション・ボタンで [HERTZ/CENT] を選び、1/100セントごとに音程を設定します。



設定値	説明
-99.99 ~ 0 ~ +99.99 (cent)	音程を設定します。

5. ファンクション・ボタンでWRITEを選び、編集した音律を保存します。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



6. [▲][▼] ボタンで保存する番号を選びます。
7. ファンクション・ボタンでWRITEを選び、保存します。
確認メッセージが表示されます。

平均律 (equal temperament) 以外を選んだ場合

平均律以外 (Pythagorean, Mean-Tone, Werckmeister III, Kimberger III and the Just Major and Minorなど) の音律を選んだ場合、ルート音を指定できます。

下図の部分に ROOT NOTEのボタンが表示されます。



1. ファンクション・ボタンでROOT NOTEを選びます。
ルート音を指定する画面になります。



2. ルート音を選びます。

設定値	説明
C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B	音階のルート音

3. ファンクション・ボタンで←を選び、設定画面を抜けます。

USER scalesを選んだ場合

下図の部分にEDITのボタンが表示されます。



1. ファンクション・ボタンでEDITを選びます。



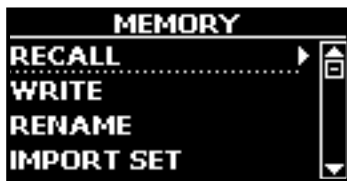
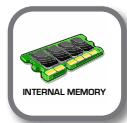
2. [▲][▼] ボタンまたは鍵盤を弾いて、編集する音を選びます。
3. [◀][▶] ボタンで音程を設定します。
4. ファンクション・ボタンで [HERTZ/CENT] を選び、1/100セントごとに音程を設定します。

設定値	説明
-99.99 ~ 0 ~ +99.99 (cent)	チューニング値

5. ファンクション・ボタンで WRITE を選び、編集した音律を保存します。
ディスプレイに確認メッセージが表示されます。
6. ファンクション・ボタンで ← を選び、編集画面から抜けます。

MEMORY

[MENU/EXIT] ボタン → MEMORY



詳細は、「メモリーとメモリーセット」(P.36) をご参照ください。

USB REMOVE

[MENU/EXIT] ボタン → USB REMOVE

USBメモリーを取り外す前には、必ずこの操作を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.16) をご参照ください。

AUDIO INPUT

[MENU/EXIT] ボタン → AUDIO INPUT

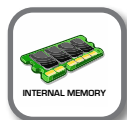


▶ LEVEL

設定値	説明
0 ~ 127	オーディオ・イン端子から入る信号の入力レベルを調節します。

MIDI

[MENU/EXIT] ボタン → MIDI



MIDI パラメーターに関する設定をします。

外部シーケンサー・ソフトをはじめ外部MIDI機器とVIVO S1とでMIDIデータの送受信ができます。



VIVO S1 のキーボード・パートの説明です。

パート	説明
MAIN	電源をオンにすると、自動的にピアノ・モードになります。すべての鍵域をグランドピアノの音色で演奏できます。 MAIN/パート
COUPLED	MAIN パートに重ねるパートです。[] ボタンを押すと COUPLED パートがオンになり、鍵盤を弾くと MAIN パートの音色に重なって音が鳴ります。 MAIN/パート + COUPLED/パート
LOWER	鍵盤をスプリットした時にオンになります。[] ボタンを押すと、鍵盤が左右 2 つに分割(スプリット)され、それぞれ異なるパートで演奏できるようになります。スプリット・ポイントを境に左側が LOWER パート、右側が MAIN パートの音色で演奏できます。 LOWER/パート MAIN/パート

1. 設定するパラメーター・グループを選びます。
グループごとに、設定できるパラメーターが異なります。

▶ RECEPTION



各パートのMIDI受信パラメーターを設定します。また、受信したMIDIメッセージをメモリーに送るかどうかを管理します。

1. 編集するパートを選びます。



上図はMAINパートを選んだ例です。

MAIN、COUPLED、LOWER		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値: On	ONに設定すると、MIDIデータを受信します。

MAIN, COUPLED, LOWER		
パラメーター	設定値	説明
Channel	1 ~ 16	MIDI情報の受信チャンネルです。
Shift	-48~0~+48 初期値:0	受信したノート情報を、VIVO S1の音源に送る前にトランスポートします。 半音単位で最大4オクターブの範囲で音程を上下できます。
Modulation	OFF, ON 初期値:On	ON メッセージを受信します。 OFF メッセージを受信しません。
Volume		
Panpot		
Expression		
Reverb		
Chorus		
Hold		
Sostenuto		
Soft		
PG (Program Change)		
PB (Pitch Bender)		

パート	MIDI RX チャンネル (初期値)
MAIN	1
COUPLED	2
LOWER	3
Memory	15

2. Memoryパートを選ぶと、次の画面が表示されます。



Memory		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON Default: On	MemoryパートでMIDIメッセージを受信する場合はONに設定します。
Channel	1 ~ 16 default: 15	MemoryパートのMIDI受信チャンネルを設定します。

▶ TRANSMISSION



各パートのMIDI送信パラメーターを設定します。Memoryパートの送信メッセージの管理や、COMMONセクションではアクティブセンシング情報も設定できます。

1. 編集するパートを選びます。



上図はMAINパートを選んだ例です。

MAIN, COUPLED, LOWER		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値:ON	ONに設定すると、MIDIデータを送信します。
Channel	1 ~ 16 初期値:1	MIDI送信チャンネルを設定します。
Shift	-48~0~+48 初期値 :0	外部機器にノート情報を送信する際にトランスポートして送信します。
Local	OFF, ON 初期値:ON	OFFに設定すると、VIVO S1の鍵盤と内部音源を切断します。鍵盤を弾いても内部音源が鳴らなくなります。
Modulation	OFF, ON 初期値:On	OFFを設定すると、パラメーター情報をMIDI送信しません。
Volume		
Panpot		
Expression		
Reverb		
Chorus		
Hold		
Sostenuto		
Soft		
PG (Program Change)		
PB (Pitch Bender)		

パート	MIDI TX チャンネル (初期値)
MAIN	1
COUPLED	2
LOWER	3
Memory	15

2. Memoryパートを選ぶと、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



Memory		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON Default: On	メモリーを呼び出す際にMIDI情報を送信するにはONを設定します。詳細は「メモリーとメモリーセット」(P.36)をご参照ください。
Channel	1 ~ 16 default: 15	メモリーパートにMIDI送信するチャンネルを設定します。

3. Commonパートを選ぶと、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



Common		
パラメーター	設定値	説明
Active Sensing (FEH)	OFF, ON Default: On	ONに設定すると、MIDI情報 (FEH) を約250ms間隔で絶えず送信します。これは外部機器と正しくMIDI接続されていることを確認するための情報です。 外部機器がそれまで受信していたアクティブセンシング (FEH) を受信しなくなると、MIDI接続が切断されたと判断し、その時点で発音している音をリセットするなどの処理をします。

パラメーター	設定値	説明
Auto OFF	Off, 5 min, 10 min, 30 min, 2 hours, 4 hours Default: 2 hours	VIVO S1を一定時間操作しなかった場合、電源が自動でオフになるまでの時間を設定します。Offを設定すると、電源は自動でオフになりません。
Pedal	Global, Memory	Global : ペダルの割り当てをグローバル・エリアに保存します。ペダルの割り当ては呼び出されたメモリーには依存しません。 Memory : ペダルの割り当てをメモリー・エリアに保存します。ペダルの割り当ては、呼び出されたメモリーにより異なります。

▶ MIDI SET

MIDIセットはMIDI設定用のメモリーです。VIVO S1には4つのMIDI SETがあります。

1つ目のMIDIセットDexibellは読み取り専用で、MIDIの初期設定を復元するためのセットです。

2つ目のKeyboardZoneも読み取り専用で、ゾーンを使ってMIDIチャンネルを素早く設定するためのセットです。

それ以外のセットは、ユーザーのMIDI設定を記憶したり呼び出したりできます。



1. [▲] [▼] ボタンでMIDIセットを選び、ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
2. ファンクション・ボタンでSAVEを選び、SAVE MIDI SET画面に移ります。

▶ SAVE MIDI SET



1. [▲] [▼] ボタンで保存するMIDIセットを選びます。ファンクション・ボタンでWRITEを選ぶと、設定が保存されます。

GLOBAL

[MENU/EXIT] ボタン → GLOBAL



このパラメーターは VIVO S1のグローバル・メモリーに自動的に保存されます。

SOUND LIBRARY

[MENU] ボタン → SOUND LIBRARY

サウンド・ライブラリを VIVO S1のインターナル・メモリーにインポートし、演奏で使用できます。詳細は「音色を追加する (サウンド・ライブラリー)」(P.24) をご参照ください。

FACTORY RESET

[MENU] ボタン → FACTORY RESET

VIVO S1の設定を工場出荷時の状態に戻します。詳細は「工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)」(P.32) をご参照ください。

BACKUP

[MENU] ボタン → BACKUP

データをバックアップします。詳細は「データをUSBメモリーにバックアップする」(P.32) をご参照ください。

VERSION INFO

[MENU] ボタン → VERSION INFO

VIVO S1のオペレーティング・システムのバージョン情報を表示します。

19 付録

エフェクト・タイプとパラメーター・リスト

1: Thru (スルー)

エフェクト・プロセッサーをバイパスします。

2: EP Tremolo (EPトレモロ)

音の振幅を周期的に変調するエフェクトです。エレクトリック・ピアノに効果的です。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。

3: Equalizer (イコライザー)

4バンド・ステレオ・イコライザーです。(low, mid x 2, high)

パラメーター	設定値	説明
Low Freq	80 ~ 400	低域の周波数を設定します。
Low Gain	-12 ~ 0 ~ +12	低域のゲインを設定します。
High Freq	800Hz ~ 8KHz	高域の周波数を設定します。
High Gain	-12 ~ 0 ~ +12	高域のゲインを設定します。
Mid1 Freq	200Hz ~ 4KHz	中域 (Mid1) の周波数を設定します。
Mid1 Gain	-12 ~ 0 ~ +12	中域 (Mid1) のゲインを設定します。
Mid1 Q	0.5 ~ 12.0	ゲイン設定の影響を受ける中域 (Mid1) の幅を調整します。 設定値が大きいくほど、幅が狭まります。
Mid2 Freq	200Hz ~ 4KHz	中域 (Mid2) の周波数を設定します。
Mid2 Gain	-12 ~ 0 ~ +12	中域 (Mid2) のゲインを設定します。
Mid2 Q	0.5 ~ 12.0	ゲイン設定の影響を受ける中域 (Mid1) の幅を調整します。 設定値が大きいくほど、幅が狭まります。

4: Vibrato (ビブラート)

ピッチを定期的に細かく変化させる効果です。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	ピッチ変化のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	ピッチ変化の量(強さ)を設定します。

5: Flanger (フランジャー)

音に大きなうねりとピッチの動きを与え、金属的な共鳴効果を生み出します。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。

パラメーター	設定値	説明
Balance	0 ~ 100	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてフランジャーが効き始めるかを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。音が空間的に広がって聞こえます。

6: Chorus (コーラス)

直接音に加える入力信号の遅れを調節することで、音に厚みと温かさを加え、LFOの位相を左右で互いにずらすことで、音に広がりを与えます。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果をかける強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Balance	0 ~ 100	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてコーラスが効き始めるかを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。

7: Phaser (フェイザー)

直接音に位相を変えた音を合わせることによって、音にうねりを出します。エレクトリック・ピアノの音にかけると効果的です。LFOの位相を左右で互いにずらすことで、音に広がりを与えます。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果をかける強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Phase	0 ~ 180 deg	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。

8: Reverb (リバーブ)

部屋やホール、スタジアムなど、音響空間に応じた残響をシミュレートします。

パラメーター	設定値	説明
Level	0 ~ 127	エフェクトをかける量を設定します。
Damping	0 ~ 127	カーペット、木材、レンガ、コンクリートなど、音響空間の素材による音の減衰量を調節します。 設定値が大きくなると、高周波減衰量が増えます。
Room Size	0 ~ 127	シミュレートする部屋のサイズを設定します。

パラメーター	設定値	説明
Width	0 ~ 127	リバーブのステレオ幅を設定します。設定値が大きくなると、ステレオ幅が広がります。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてリバーブが効き始めるかを設定します。

9 : Delay (ディレイ)

エコーをシミュレートします。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 500 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 500 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

10 : Cross Delay (クロス・ディレイ)

高度なステレオ・ディレイの効果が得られます。

各エコー (反射音) は、元となる音の反対側のチャンネルから聴こえます。例えば左チャンネルのエコーは右から聴こえます。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 500 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 500 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

11 : Triple Tap Delay (トリプル・タップ・ディレイ)

左、右、中央の3方向にディレイ音を生成します。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 500 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 500 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay C	0 ~ 500 ms	センター (L+R) チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Level L	0 ~ 100	左側ディレイ音の音量を設定します。
Level R	0 ~ 100	右側ディレイ音の音量を設定します。
Level C	0 ~ 100	中央ディレイ音の音量を設定します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。

パラメーター	設定値	説明
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

12 : Rotary (ロータリー)

ロータリー・スピーカーによって作られる特徴的なエフェクトで、音に広がりを与えます。オルガン音色に効果的です。

パラメーター	設定値	説明
Speed	Slow, Fast	スピーカーの回転速度です。
Brake	OFF, ON	ホイール・ブレーキをコントロールします。初期値はOFFで、この時トーン・ホイールは回転しています。このパラメーターをONにすると、トーン・ホイールの回転が徐々に遅くなり、やがて停止します。
Vibrato Sw	OFF, ON	ビブラートのオン・オフです。
Vibrato Type	V1, C1, V2, C2, V3, C3	ビブラートまたはコーラスのタイプを選びます。Vはビブラート、Cはコーラスを表します。

13 : Tremolo (トレモロ)

音の振幅を周期的に変調し、トレモロをかけます。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。

14 : Tremolo Pan (トレモロ・パン)

通常のトレモロに加え、左右の位相差を設定できます。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。

15 : Overdrive (オーバードライブ)

古い真空管アンプを大音量で鳴らしたときのように、音を歪ませます。ハードロックなどのジャンルで使用されます。

パラメーター	設定値	説明
Drive	1 ~ 100	設定値が大きいほど歪が大きくなります。
Tone	100 Hz ~ 10.0 KHz	特定の倍音を強調、または低減します。
Level	0 ~ 100	エフェクトの音量を設定します。
Low Freq	80 ~ 400	低音域の周波数を設定します。
Low Gain	-12 ~ 0 ~ +12	低音域のゲインを設定します。
High Freq	800Hz ~ 8KHz	高音域の周波数を設定します。
High Gain	-12 ~ 0 ~ +12	高音域のゲインを設定します。

VIVO S1 音色リスト

Num.	Name	PC	CC00
PIANO			
0001	VIVO Grand	2	0
0002	Pop Grand	2	1
0003	VIVO Live	2	2
0004	VIVO Upright	1	2
0005	Classic Grand	1	0
0006	Romantic	1	1
0007	Elec.Grand	3	2
0008	E.Grand Trem	3	3
0009	Rock Piano	3	1
0010	Ragtime	4	0
0011	Honky Tonk	4	1
0012	Harpsi 8'	7	0
0013	Harpsi 4'	7	1
0014	Coupled Hps.	7	2
0015	Pop Harpsi	7	3
E. PIANO			
0016	Dyno Stage	5	0
0017	Suitcase	5	1
0018	Phaser EP	5	2
0019	Wurly	5	5
0020	Trem.Wurly	5	6
0021	Soft E.Piano	5	3
0022	Bright E.Piano	5	4
0023	FM Full Tines	6	0
0024	FM E.Piano	6	1
0025	Cool Clav	8	0
0026	Groovy Clav	8	1
0027	Doctor Clav	8	2
0028	Funky Clav	8	3
ORGAN			
0029	Jazz Organ	18	0
0030	Blues Organ	18	1
0031	Reggae Organ	17	0
0032	R&B Organ	17	1
0033	Pop Organ	17	2
0034	Rock Organ	19	0
0035	Gospel Organ	19	1
0036	Principal	20	0
0037	Princip&Flute	20	1
0038	Church	20	2
0039	Mixture	20	3

Num.	Name	PC	CC00
ENSEMBLE			
0040	Slow Strings	50	0
0041	Strings	50	1
0042	Fast Strings	49	0
0043	Strings Ens.	50	2
0044	Orchestra	49	1
0045	Dark Strings	50	3
0046	Strings Pad	51	0
0047	Syn. Strings	51	1
0048	80's Strings	52	0
0049	Classic Choir	53	1
0050	Space Vox	55	1
0051	Mmh Choir	53	0
0052	Choir Pad	54	1
0053	Synth Vox	55	0
0054	Warm Pad	90	0
0055	Dark Pad	54	0
0056	Soft Pad	90	1
0057	Square Pad	90	2
0058	Fanta Bell	101	0
0059	Dexi Heaven	101	1
0060	Brass Sect.	62	0
0061	Brass Ens.	62	1
0062	Synth Brass	63	0
0063	Poly Brass	63	1
0064	Poly Synth	91	0
0065	Super Saw	91	1
0066	Fast Synth	91	2
(MORE)			
0067	Vibraphone	12	0
0068	Marimba	13	0
0069	Celesta	9	0
0070	Harp	47	0
0071	Xilophone	14	0
0072	Nylon Guitar	25	0
0073	Steel Guitar	26	0
0074	Jazz Guitar	27	0
0075	Overdrive GT.	30	0
0076	Acoustic Bs.	33	0
0077	Fingered Bs.	34	0
0078	Picked Bs.	35	0
0079	Ac.Bass&Ride	33	1
0080	Synth Bass	39	0

20 トラブルシューティング

症状	確認事項と対策	ページ
電源が勝手にオフになります。	オートパワーオフ機能が設定されています。自動で電源をオフにたくない場合は、オートパワーオフ機能の設定値をOFFに設定してください。	49
電源がオンになりません。	VIVO S1とACアダプター、電源コードが正しく接続され、コンセントに接続されているか確認してください。	14
	NOTE 付属品以外のACアダプターや電源コードは使用しないでください。誤動作の原因になります。 電源をオフにした直後に電源をオンにいませんか？ 電源をオフにしたあと再び電源をオンにするには、5秒以上の間隔を空けてください。	-
VIVO S1から音が鳴りません。	VIVO S1の電源をオンにしましたか？	17
	[VOLUME] ノブが最小になっていませんか？ボリュームを上げてください。	-
	パート・ボリュームの値が小さすぎませんか？パートごとの音量レベルを確認してください。	30
VIVO S1をアンプに接続すると、音量が小さくなります。	抵抗の入った接続ケーブルを使用していませんか？抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。	-
VIVO S1のINPUT端子に接続した機器の音量が不十分です。	抵抗の入った接続ケーブルを使用していませんか？抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。	-
	AUDIO INPUTレベルが下がっていませんか？レベルの設定値を上げてください。	47
鍵盤で弾くときの音量に比べて、再生する曲の音量が大きすぎます。	ソング・プレイヤーの音量設定値が大きすぎます。SONG CONTROL画面でから、音量バランスを調節してください。	34
楽器のピッチが正しくありません。	「Tuning」または「Temperament」の設定は適切ですか？パラメーターを確認してください。	45
	トランスポーズしていませんか？設定を確認してください。	30
外部アンプからハムノイズが聞こえます。	VIVO S1と接続した外部アンプまたは外部機器の電源は、VIVO S1とは別のコンセントに接続していますか？ アンプまたはその他の機器の電源を、VIVO S1と同じコンセントに接続してください	-
	近くで使用している携帯電話が干渉している可能性があります。携帯電話の電源を切るか、機器から離れた場所で使用してください。	-
VIVO S1のUSB Computer端子とパソコンを接続したが、VIVO S1がMIDI情報を受信しない。	VIVO S1の受信チャンネルと、パソコンの送信チャンネルの設定は正しいですか？MIDIチャンネルを正しく設定してください。	47
USBメモリーの読み書きができません。	USBメモリーのフォーマットを確認してください。VIVO S1は、FAT形式でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。お使いのUSBメモリーが他の方法でフォーマットされている場合は、MS-DOS FATとして再フォーマットしてください。	-
USBメモリーに保存できません。	USBメモリーにライトプロテクトがかかっていませんか？	-
	USBメモリーに十分な空き容量がありますか？	-
録音の開始や停止が意図したとおりに動かない。	USBメモリーに十分な空き容量がありますか？	-
曲が再生できない。	VIVO S1で再生できるファイル・タイプかどうか確認してください。	33
	曲データが破損している可能性があります。	-

お問い合わせの窓口

本書をご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigentカスタマーサポートまでご連絡ください。

なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigentへのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

■ Dirigentへのご登録方法：

Dirigentサポートページにアクセスし、Dexibellオンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

■ Dirigentカスタマーサポート：

電話でお問い合わせの際は、Dirigentへのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、メールでのお問い合わせは、Dirigentサポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

● 電話番号：03-6264-7818 受付時間：月曜日～金曜日10:30～17:00（弊社特別休業日を除く）

● Dirigentサポートサイト：<https://dirigent.jp/support/>

21 技術仕様

ITEMS		VIVO S1
KEYBOARD TYPE	68 - Keys Light Weighted - Dual contact	
TONE GENERATOR	T2L: Sampling and Modelling Technology	
MODELLING	Reactive to player articulation	
SAMPLING	XXL wave size, holophonic recording up to 15 seconds on lower piano notes	
SOUND WAVE FORMAT	24 bit linear - 48 KHz (Internal processing and DSP at 32 bit floating)	
DIGITAL ANALOG CONVERSION (DAC)	24 bit linear - 48 KHz, Dynamic Range, S/N:106dB	
MAXIMUM POLYPHONY	Unlimited with 320 Oscillator	
SOUNDS	80 + Unlimited User (depending on the internal memory free), downloadable with file extensions .DXS and .SF2	
MEMORY	Internal: 80 User: Unlimited loadable from USB Memory	
KEYBOARD MODE	3 Parts (UPPER, LOWER, COUPLED) + 4 MIDI ZONE	
TOUCH SENSITIVITY	7 Types + Fixed	
REVERB	24 Types	
EFFECTS	6 independent DSP Effects (2 x Main, 2 x Coupled, 2 x Lower) using "seamless changes" technology at effect recall	
MASTER EQUALIZER	3-band Digital Equalizer	
PLAYER AUDIO	.wav, .aiff, .mp3, in all format, frequency and bit rate	
RECORDER AUDIO	.wav (48 kHz, 32-bit floating) on USB Memory	
MASTER TUNING	YES: 415,4Hz to 466,1 Hz (adjustable increments of 0,1 Hz) + 2 Preset (440 Hz, 442 Hz)	
TEMPERAMENT	9 Types	
USER TEMPERAMENT	3 User	
RHYTHM PATTERNS	X MURE APP for i-Phone and i-Pad (FREE) with multitracks audio patterns	
DISPLAY	Graphic LCD 128 x 64 dots Organic LED, high contrast type	
CONNECTORS	DC IN socket	for supplied AC adaptor
	AUDIO IN jack	Stereo miniature phone type
	Output (L/Mono, R) jacks	1/4-inch phone type x 2
	Phones jacks	1 x Stereo miniature phone type
		1 x Stereo 1/4-inch phone type
	USB COMPUTER port	Type B
	USB MEMORY port	Type A
	DAMPER Pedal (HOLD) socket	Progressive Damper Action Pedal with sympathetic resonance simulation (Accept on/off pedal also)
	ASSIGN 1 Pedal socket	Assignable
ASSIGN 2 Pedal socket	Assignable (default Expression)	
Power Supply	12V DC 2A , supplied AC/DC adaptor	
POWER CONSUMPTION	Stand By: < 0,2 W	
	Maximum: < 9 W "ErP" LEVEL VI for Echo efficiency on stand-by consumption	
DIMENSIONS	1093 (W) x 242 (D) x 94 mm (H) 43-1/16 (W) x 9-9/16 (D) x 3-3/4 (H) inches	
WEIGHT	8,8 kg (excluding AC adaptor) 19 lbs 7 oz (excluding AC adaptor)	
SUPPLIED ACCESSORIES	Quick guide	
	AC adaptor (DEXIBELL DYS624-120200W)	
OPTIONS (sold separately)	<ul style="list-style-type: none"> • DX CP1 continuous sustain pedal with selectable mode switch (Switch, continuous) • DX SP1 switch pedal with selectable mode switch (normally closed, normally open) • DX HF7 Stereo headphones 	

NOTE

22 インデックス

Symbols

A

AC Adaptor	14
AUDIO INPUT	46
AUTO OFF	18

B

Batteries	14
duration	15
Installing	14
level indication	14
Removing	14
Battery Compartment	10

C

Computer	
Connecting Your Computer	16
CONTROLS	43
COUPLED FX	43
COUPLED SETTING	42
Cursor	19
Cursor Operation	19
Moving the cursor	20

D

DAMPER PEDAL	43
DC IN jack	14
Demo	18
Digital Player devices	
Connecting	16
Display	19

E

Effect	
Reverb Effect	26
EFFECTS	43
Export	
Exporting the Internal Memory Set	37

F

File name	
Assigning the Name You Specify	20

G

GLOBAL	48
--------------	----

H

Headphones	16
Listening Through Headphones	15,16

I

Import	
--------	--

Importing Memory Set	38
Installing batteries	14

J

K

Keyboard Response (Key Touch)	
Adjusting the Keyboard Response	30
KEYBOARD TOUCH	42
Key Touch	
Adjusting the Keyboard Response	30

L

Layer	
Playing Two Sounds Over the Entire keyboard (Layer)	22
Level indication	14
Lower	
Mute the Lower Part	23
LOWER FX	43
LOWER SETTING	42

M

MAIN FX	43
MAIN SETTING	42
MASTER EQ	43
MASTER TUNE	44

Memories

Exporting the Internal Memory Set in the USB Memory	37
Importing Memory Set from the USB Memory into Internal Memory.	38
Recalling your settings from an USB Memory	37
Recalling your settings from Internal Memory	35
Renaming a Memory	37
Saving Your Settings in the Internal Memory	35
Working with the Memories	35

MEMORY	46
--------------	----

MENU

MENU Options (Advanced Section)	41
---------------------------------------	----

Metronome

Practicing with the Metronome	30
-------------------------------------	----

MIDI	46
------------	----

MIDI Interface	17
----------------------	----

MIDI zones	39
------------------	----

Mute the Lower Part	23
---------------------------	----

N

O

P

Parameters	
GLOBAL	48
PEDAL	
DAMPER PEDAL	43
PEDAL ASSIGN 1	43
PEDAL ASSIGN 2	44
Pedal Cord	
Connecting the Pedal Cord	15
Power On/Off	17
Turning the Power On/Off	17

Q

R

Record	
Recording Your Performance	34
Removing batteries	14
Rename	
Renaming a Memory	37
Reverb	
Reverb Effect	26
REVERB	43

S

Save	
Saving Your Settings in the Internal Memory	35
Saving Your Settings in the USB Memory	35
SETTING	
SETTING Parameters Group	42
Song	
Loading from Song Internal Memory	32
Loading from USB Memory	32
Playing a Song	32
Practice with Song Player	32
Sound Library	24

Sounds	
Personalizing Your Sounds	27

Specifications	53
----------------------	----

Split

Splitting the Keyboard Range and Playing Two Different Tones	22
--	----

SPLIT MODE	42
------------------	----

T

T2L EDITOR	43
------------------	----

T2L-Modelling	27
---------------------	----

TEMPERAMENT	45
-------------------	----

Tones

Grand Piano Mode	21
------------------------	----

Most Frequently Used Tones (Favorite Tone)	21
--	----

Selecting Tones	21
Transpose	
Transposing the pitch of the keyboard or/and song	
30	
TRANSPOSE	42
Troubleshooting	52
TUNE	
MASTER TUNE	44
TUNING	44
U	
USB Memory	
Connecting an USB Memory	16,17
Exporting the Internal Memory Set in the USB Memory	
37	
Importing Memory Set from the USB Memory into Internal Memory.	38
Recalling your settings from an USB Memory	37
Saving Your Settings in the USB Memory	35
USB MIDI Interface	17
V	
VOLUME knob	8
W	
X	
X MURE	40
Y	
Z	
Zone (MIDI)	39

DEXIBELL

DEXIBELL
is a brand of

PROEL SPA
(Worldwide Headquarters)
Via alla Ruenia, 37/43
64027 Sant'Omero (TE) - ITALY
Tel. +39 0861 81241
Fax +39 0861 887865
P.I. 00778590679
N.Reg.AEE IT 08020000002762

info@dexibell.com
www.dexibell.com

Dexibell製品国内輸入総代理店：
株式会社銀座十字屋ディリгент事業部
〒104-0045 東京都中央区築地4-4-15-10F
03-6264-7818 (カスタマーサポート)
<https://dirigent.jp/>

Dirigent